Pioneer

AVマルチチャンネル・アンプ

VSX-918V
VSX-518V

簡単ガイド
接続
各部の名称
再生
設定
ラジオ
録音／録画
iPod／USB
連動
リモコン
その他

インターネットによるお客様登録のお願い

http://pioneer.jp/support/

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお、上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

このたびは、パイオニア製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」（74 ページ）は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」は、「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

もくじ

06 システムセットアップ設定..... 36

07 ラジオチューナーの使用 47

08 機器の録音／録画.................. 49

09 iPod/USB メモリーの再生... 50

10 フラットテレビとの連動操作... 55

11 他機器のリモコン操作.......... 57

12 その他................................ 64

第 1 章:
はじめに

付属品を確認する

以下の付属品があることを確認してください。

- セットアップ用マイク
- リモコン
- 単 3 形乾電池(動作確認用)× 2
- AM ループアンテナ
- FM アンテナ
- 保証書
- 取扱説明書(本書)

リモコンに電池を入れる

重要

電池を誤って使用すると液漏れや破裂の危険があります。次の注意を守ってください。

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。

本機を設置する

- 本機を設置するときは、必ず平らで安定した面に設置してください。

次の場所には本機を設置しないでください。

- テレビの上(映像が歪むことがあります)
- カセットデッキまたは磁気を発する機器の近く (音声に悪影響を与えることがあります)
- 直接日光の当たる場所
- 湿気のある場所
- 高温または低温の場所
- 振動のある場所
- ほこりの多い場所
- 台所など煙が出たり油を使用する場所

設置について

- 放熱のため、本機の上に物を置いたり、布やシートなどを被せた状態でのご使用は絶対におやめください。異常発熱により故障の原因となる場合があります。

- ラックなどに設置する場合は、上部に 20 cm 以上空間をあけてください。

第２章：

簡単ガイド

ホームシアター入門

ホームシアターとはソフトに収録された複数の音声を 3 本以上のスピーカーで再生し、ご家庭でサラウンド空間を作ることです。まるでコンサート会場や映画の場面の中にいるような臨場感をお楽しみいただくことができます。再生するソフトの音声信号の種類や設置したスピーカー、本機のサラウンド設定などによっていろいろなサラウンド効果を得ることができます。本機ではドルビーデジタルや DTS などの DVD ソフトに記録されたマルチチャンネル音声を、スピーカーの状況に合わせて自動で最適に再生します。また、ソフトが 2 ch の場合でもドルビープロロジック II モードにすることでマルチチャンネルサラウンド再生を行うことができます。詳しくは「機器の再生」（29 ページ）をご覧ください。

サラウンド再生を楽しむ

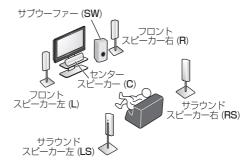
以下の手順のとおりに接続、設定を行うだけで簡単にサラウンド再生を行うことができます。設定についてはほとんどの場合、工場出荷時の設定のままで再生できるように設定されています。

- 機器の接続を行うときは、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

1　テレビと DVD プレーヤーを本機に接続する。

サラウンド再生をするには、DVD プレーヤーと本機をデジタル接続する必要があります。詳しくは「テレビや DVD プレーヤーを接続する」（11 ページ）をご覧ください。

2　スピーカーの設置と接続をする。

「スピーカーを接続する」（19 ページ）をご覧になり、スピーカーを接続してください。スピーカーの設置のしかたは音質に大きく影響しますので、次の図のように最適な場所に設置してください。

3　DVD プレーヤーやテレビ、サブウーファーの電源を入れ、本機の電源も入れる。

テレビの映像入力を本機の出力映像が表示されるように設定します。この方法がわからない場合は、テレビの取扱説明書をご覧ください。

4　Auto MCACC 設定でスピーカーシステムなどのサラウンド設定を行う。

詳しくは「Auto MCACC で自動設定する」（6 ページ）をご覧ください。

5　DVD を再生して、本機の音量を調整する。

リモコンの **DVD** ボタンを押して、本機の入力を DVD/BD にします。[1] 表示部に DVD/BD と表示されていることを確認してください。[2]

メモ

1 DVD プレーヤーの音声出力設定を、「Dolby Digital」や「DTS」、「88.2 kHz/96 kHz PCM」音声信号が出力されるように設定します。詳しくはお手持ちの DVD プレーヤーの取扱説明書をご確認ください。

2 **AUTOSURR.** インジケーターが点灯していることを確認してください。点灯していないときは **AUTO SURR** ボタンを押して AUTO SURROUND モードを選択してください。

本機ではいろいろな再生効果を選ぶことができます。詳しくは「機器の再生」（29 ページ）をご覧ください。[1] また、より詳細な設定については「システムセットアップで本機の 設定をする」（36 ページ）をご覧ください。

Auto MCACC で自動設定する

Auto MCACC（Multi Channel Acoustic Calibration System）では、スピーカーの大きさやリスニングポジションからの距離などを測定し、各スピーカーの出力遅延と出力レベルを調節します。また部屋の暗騒音まで考慮した視聴環境の周波数特性の測定を行い、スピーカーシステム全体の周波数バランスも調節します。設定はスピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップマイクで測定し、解析します。

重要

- Auto MCACC 設定を行うと、それ以前に行ったスピーカーに関する設定は、すべて上書きされます。
- Auto MCACC 設定を行う前に、**PHONES** 端子にヘッドホンが接続されていないことを確認してください。
- 付属のセットアップ用マイクを TV モニターの近くに置いて Auto MCACC 設定を行わないでください。

注意

- Auto MCACC 設定では、テストトーンが大音量で出力されます。

1　本機とテレビの電源を入れる。

2　フロントパネルの MCACC PORTABLE 端子にマイクを接続する。

スピーカーとマイクの間に障害物がないことを確認してください。

リスニングポジションにマイクを設置するときは、三脚を使ってマイクを耳の高さにします。三脚がないときは、台や椅子などを使い、マイクが耳の高さで水平になるようにしてください。

3　リモコンの AV アンプボタンを押してから、設定ボタンを押す。

テレビにシステムセットアップ画面が表示されます。

リモコンの ⬆/⬇/⬅/➡ と**決定**ボタンを使って、操作項目を選びます。

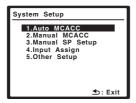
前の画面に戻るには、**戻る**ボタンを押します。

- システムセットアップを終了するには、**設定**ボタンを押します。[2]

メモ

1 DVD プレーヤーや再生するソフトによっては 2 ch のみの再生となることがあります。このようなときにマルチチャンネルで再生したいときは **STANDARD** を押して STANDARD モードを選択してください。

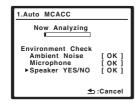
2 ・Auto MCACC 画面のまま 3 分間放置すると、画面にスクリーンセーバー機能が働きますが、いずれかのボタンを押すことで再び同じ画面を表示します。
・Auto MCACC 設定を途中で中断したときは、それまでの測定内容は確定されません。
・テレビを HDMI ケーブルで接続してシステムセットアップ画面が表示されない場合は、システムセットアップを行う際は、一般的なビデオコードまたは D 端子ケーブルで接続してください。

4 ⬆/⬇ ボタンで「Auto MCACC」を選んで、決定ボタンを押す。

- 上記画面の「Other Setup」が表示されるのは VSX-918V のみです。

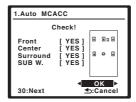
5 自動測定が開始されます。

- マイクが正しく接続されているかを確認してください。
- 本機は、サブウーファーが接続されているかを電源が入るたびに自動検出します。サブウーファーを接続しているときは、サブウーファーの電源を入れて音量を適度に上げておいてください。

6 Auto MCACC 設定が開始されます。

スピーカーシステムの確認のためテストトーンが出力され、測定中を示す画面になります。測定中はできるだけ静かにしてください。

- テストトーンによる測定中は音量を調節しないでください。正しく測定されないことがあります。

7 スピーカーの有り無しを確認する。

測定が終わると、スピーカー有り無しの判定の確認画面が表示されます。30 秒間何も操作がないときは自動で手順 8 へ進み、Auto MCACC 設定が再開されます。

⬆/⬇ ボタンで各スピーカーの測定結果を確認し、実際のスピーカー接続と合っているかを確認することもできます。

有無 / スピーカー	接続している	接続していない
F フロント左右	YES	NO
C センター	YES	NO
S サラウンド左右	YES	NO
SW サブウーファー	YES	NO

スピーカーの測定結果が間違っていたときは ⬆/⬇ ボタンでスピーカーを選んで ⬅/➡ ボタンで設定を変更します。

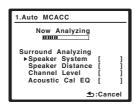
エラー（**ERR**）が表示されたときは、マイクやスピーカー接続に問題があるかもしれません。

「**ERR**」表示には以下のような種類があります。

- **ERR MIC** – マイクの接続を確認してください。
- **ERR Fch** – フロントスピーカーの接続を確認してください。
- **ERR Sch** – サラウンドスピーカーの接続を確認してください。
- **ERR SW** – サブウーファーの電源を入れて音量を上げてください。

「**RETRY**」を選んで再測定しても同じエラーが表示されるときは、電源を切ってからスピーカーの接続を確認してください。

8 「OK」と表示させてから決定ボタンを押す。

スピーカー出力レベル、スピーカーまでの距離、周波数特性の補正が開始され測定中を示す画面になります。

- 測定中は静かにしてください。この測定には 3 ～ 8 分程度かかります。

9 Analyzed Data Check 画面になり、自動測定が終了します。

下記の項目を ⬆/⬇/⬅/➡/ **決定**ボタンで選び、それぞれの設定値を確認することができます。[1]

戻るボタンを押すと 1 つ前の表示に戻ります。

- **Speaker System** – 接続したスピーカーの有り無しと低音再生能力の有り無し
- **Speaker Distance** – スピーカーまでの距離
- **Channel Level** – スピーカーの出力バランス
- **Acoustic Cal EQ** – 視聴環境の周波数特性の補正

確認が終わったら手順 10 へ進みます。

10 「SKIP」を選んで、決定ボタンを押す。

Auto MCACC が終了し、システムセットアップに戻ります。

アコースティック EQ が自動的に ON になり MCACC インジケーターが点灯します。

Auto MCACC では自動で最適なサラウンド環境を設定しますが、システムセットアップから項目を選んで、各設定を手動で調整することもできます。詳しくは 37 ページをご覧ください。

Auto MCACC 設定時におけるその他の問題

部屋の環境が Auto MCACC 設定に適していない場合（騒音が大きい、壁の残響が大きい、スピーカーとマイクの間に障害物があるなどの場合）、正しい測定結果を得られないことがあります。測定に影響を与える可能性のある機器（エアコン、冷蔵庫、扇風機など）を確認し、必要に応じてそれらの電源を切ってください。

フロントパネルの表示部にメッセージが表示された場合は、その指示に従ってください。

- 旧型のテレビによっては、マイクでの測定に影響を与えるものがあります。その場合は、Auto MCACC 設定のときだけテレビの電源を切ってください。

メモ

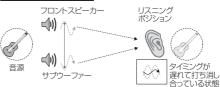
1 ・スピーカーの大小判定について、コーンサイズ 12 cm 程度の同じスピーカーを使っていても、測定時の部屋の環境によっては異なった判定をすることがあります。この場合は「聴感によるスピーカーの設定を行う (Manual SP Setup)」（41 ページ）で手動で設定を変更できます。

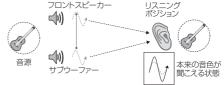
・スピーカーまでの距離について、サブウーファーまでの距離が、リスニングポジションから実際の距離よりも遠めに設定されることがあります。この設定は遅延補正や部屋の特徴を考慮に入れた正しい設定値のため、特に変更する必要はありません。

位相を合わせて音の打ち消し合いを防ぐ（PHASE CONTROL）

マルチチャンネル再生をする際、LFE(超低域)信号や各チャンネルに含まれる低音成分はサブウーファーや他の最適なスピーカーに振り分ける処理がされます。しかしこの処理には原理上、位相がズレてしまう周波数（群遅延）が発生し、低域だけが遅れて聞こえたり他のチャンネルとの干渉により低音の打ち消し合いが発生してしまうなどの問題があります。本機では、PHASE CONTROL モードを ON にすることで、原音に忠実な力強い低音を再現できます。工場出荷時は ON に設定されています。通常は ON でのご使用をお勧めします。[1]

位相とは 2 つの音波の時間的関係を表しています。2 つの音波の山と山が合っている状態を位相が合っている、合っていない状態を位相がズレていると言います。

PHASE CONTROL OFF

- リズムがぼやけてはっきりしない
- 低音の量感が失われている
- 楽器のリアリティがない

PHASE CONTROL ON

- リズムがはっきりする
- 低音の量感が失われない
- 楽器のリアリティを感じる

- **PHASE CONTROL モードを ON にする。**

ボタンを押すたびに、ON と OFF が切り換わります。

メモ

1 ・PHASE CONTROL 機能はヘッドホン使用時にも効果があります。
・サブウーファー本体に PHASE 切換スイッチがついているときはプラス側（0°側）に設定してください。ただし、本機の PHASE CONTROL を ON にしても効果が分かりにくいときは、サブウーファーの固体差が考えられますので、効果の大きい方を選んでください。また効果がわかりにくいときはサブウーファーの向きや場所を少しずつ変えてみることもお勧めします。
・サブウーファー内蔵の Lowpass フィルタスイッチを OFF にしてください。OFF にできないサブウーファーは高いカットオフ周波数に設定してください。
・スピーカーの距離を正しく設定しないと、PHASE CONTROL の効果が正しく出ない場合があります。

第 3 章：
接続

接続コードについて
コードやケーブルを本機の上や近くに置かないよう注意してください。コードやケーブルが本機の上に置かれていると、本機の電源装置から磁場が生じて、スピーカーから雑音が発生することがあります。

 重要
- 機器の接続を行うときは、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 電源コードを抜くときは、 必ず本機の電源を切ってから抜いてください。

アナログオーディオコード
アナログのオーディオ機器に接続するには、オーディオコードを使用します。一般的な赤／白プラグのケーブルで、赤いプラグを R (右) 端子に、白いプラグを L (左) 端子に接続します。

アナログオーディオコード
デジタルオーディオケーブル
デジタル機器と本機を接続するには、市販の同軸デジタルケーブルまたは光ファイバーケーブルを使用します。[1]

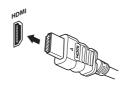
同軸デジタル
ケーブル

光ファイバー
ケーブル

ビデオコード
ビデオコード
一般的な映像用コードで、コンポジットビデオ端子に接続します。オーディオコードと区別するため、黄色のプラグです。

ビデオコード（黄）

D 端子ケーブル
輝度信号と 2 つの色差信号に分けて伝送できるケーブルです。コンポジットビデオコードよりも高品位な映像を楽しめます。

HDMI ケーブル
デジタル信号でテレビや衛星チューナーと接続することができます。1 本で映像信号と音声信号の両方を伝送します。デジタル信号をアナログ変換しないため、鮮明で高品位な映像品質を楽しめます。

メモ
1 ・光ファイバーケーブルを接続するときは、端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉まらなくなることがあります。
・急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が 15 cm 以上になるようにしてください。
・同軸デジタルケーブルは一般的なビデオコードで代用できます。

テレビやDVDプレーヤーを接続する

テレビや DVD プレーヤーと本機の接続について説明します。

1　DVD プレーヤーの同軸デジタル音声出力と、本機の DIGITAL IN COAX1 (DVD/BD) 端子を接続する。

接続には同軸デジタルケーブルを使用します。[1]

2　DVD プレーヤーのステレオ音声出力[2] および映像出力と、本機の DVD/BD AUDIO/VIDEO IN 端子を接続する。

一般的なビデオコードとオーディオコード[3] を使用します。

- DVD プレーヤーにマルチチャンネルアナログ音声出力端子がある場合は、「マルチチャンネルアナログ機器を接続する」（12 ページ）での接続方法をご覧ください。

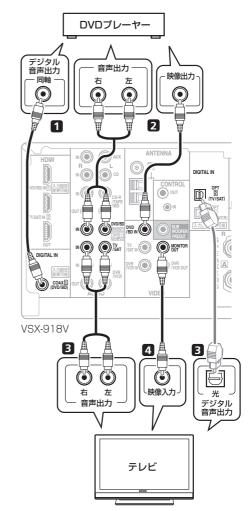
3　テレビのステレオ音声出力と、本機の TV/SAT AUDIO IN 端子を接続する。

テレビのチューナーを使って音声を楽しむ場合にオーディオコードを使用します。

テレビにデジタルチューナーが内蔵されている場合は、光ファイバーケーブルを使用してテレビの光デジタル音声出力と本機の **DIGITAL IN OPT2 (TV/SAT)** 端子を接続することもできます。

4　テレビの映像入力と、本機の MONITOR OUT 端子を接続する。

一般的なビデオコードを使用して、コンポジットビデオ端子に接続します。[4]

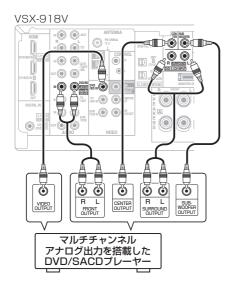
メモ

1 DVD プレーヤーに光デジタル音声出力端子しかない場合は、光ファイバーケーブルを使って本機の OPT1 または OPT2 端子に接続することができます。この際、本機の入力設定で光デジタル入力端子の設定を行う必要があります。詳しくは「入力に関する設定を行う (Input Assign)」（44 ページ）をご覧ください。

2 この接続は、DVD プレーヤーからアナログ音声での録音の際に必要となります。

3 DVD プレーヤーに D ビデオ映像出力端子があるときは、**D4 VIDEO (DVD/BD) IN1** 端子に接続することでより良い映像をお楽しみいただくことができます。詳しくは「D4ビデオ映像端子を使用する」（15 ページ）をご覧ください。

4 テレビに D ビデオ映像入力端子があるときは、**D4 VIDEO MONITOR OUT** 端子に接続することでより良い映像をお楽しみいただくことができます。詳しくは「D4 ビデオ映像端子を使用する」（15 ページ）をご覧ください。

マルチチャンネルアナログ機器を接続する

DVD オーディオや SACD の再生には、DVD プレーヤーの 5.1 チャンネルアナログ出力を使用します。本機の DVD 5.1CH INPUT 端子の接続は以下のとおりです。[1]

BS/CS/ 地上デジタルチューナーを接続する

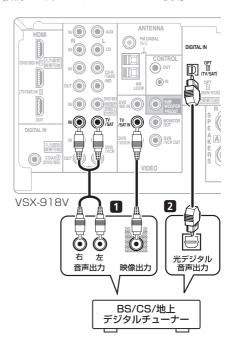
衛星放送やケーブルテレビチューナー、地上波デジタルチューナーなどの映像機器との接続について説明します。

1　チューナー機器の音声／映像出力と、本機の TV/SAT AUDIO/VIDEO IN 端子を接続する。[2]

音声の接続にオーディオコード、映像の接続に一般的なビデオコードを使用します。[3]

2　チューナー機器の光デジタル音声出力と、本機の DIGITAL IN OPT2 (TV/SAT) 端子を接続する。

接続には光ファイバーケーブルを使用します。[4]

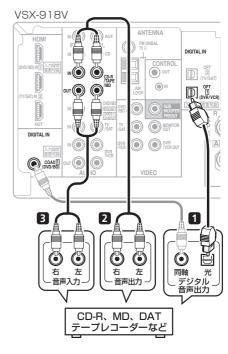
メモ

1 マルチチャンネルアナログ入力を再生するには入力を **DVD 5.1ch** 入力に切り換える必要があります（33 ページ）。
2 すでにテレビの接続に **TV/SAT** 入力を使用している場合は、他の入力に接続してください。
3 チューナー機器に D ビデオ映像出力端子があるときは、**D4 VIDEO (TV/SAT) IN2** 端子に接続することでより良い映像をお楽しみいただくことができます。詳しくは「D4 ビデオ映像端子を使用する」（15 ページ）をご覧ください。
4 チューナー機器に同軸デジタル音声出力端子しかない場合は、同軸デジタルケーブルを使って本機の **COAX1 (DVD/BD)** 端子に接続することができます。この際、本機の入力設定で同軸デジタル入力端子の設定を行う必要があります。詳しくは「入力に関する設定を行う (Input Assign)」（44 ページ）をご覧ください。

オーディオ機器を接続する

アナログ音声機器 (カセットデッキなど) を該当の端子に接続してください。録音機器の場合は、本機の 4 つの端子（**AUDIO IN L/R、AUDIO OUT L/R**）への接続が必要です。[1]
再生のみの機器の場合は、**AUDIO IN L/R** に接続するだけです。

1 オーディオ機器にデジタル出力があるときは、本機のデジタル入力と接続する。
右の接続例では、同軸デジタルケーブルを使用して **COAX1 (DVD/BD)** 端子に接続しています。

2 必要であれば、オーディオ機器のアナログ音声出力から本機の使用していない音声入力に接続する。
デジタル出力のないオーディオ機器を接続する場合や、デジタル機器から録音したいときは、オーディオコードで接続します。

3 録音機器と接続する場合は、本機のアナログ音声出力と録音機器のアナログ音声入力を接続する。
右の接続例ではオーディオコードを使用して CD-R/TAPE/MD アナログ出力端子にアナログ接続しています。

WMA9 Pro デコーダーについて

本機は WMA9 Pro デコーダーを内蔵していますので、WMA9 Pro 対応プレーヤーと同軸または光ファイバーケーブルでデジタル接続することによって、WMA9 Pro でエンコードされた音声を本機でデコードして再生することができます。WMA9 Pro 対応プレーヤーとしては、DVD プレーヤー、セットトップボックスなどが考えられます。ただし、それらの機器の同軸または光出力端子から WMA9 Pro 音声を出力できる場合のみ、本機でデコードして再生することができます。

メモ
1（MD デッキなどの）デジタル機器とアナログ機器の間で録音する場合は、デジタル機器についてもアナログ音声接続が必要です。

Windows Media、Windows ロゴは米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

HDD/DVD レコーダーやビデオデッキを接続する

本機は HDD/DVD レコーダーやビデオデッキなどのデジタル／アナログ録画機器と、デジタルでもアナログでも接続することができます。

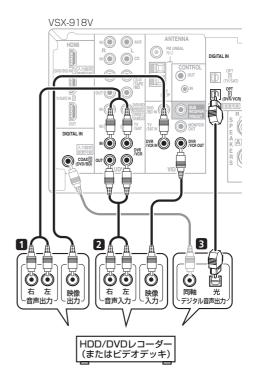
1　録画機器の音声／映像出力と本機の DVR/VCR AUDIO/VIDEO IN 端子を接続する。[1]

音声の接続にオーディオコード、映像の接続に一般的なビデオコードを使用します。

2　録画機器の音声／映像入力と本機の DVR/VCR AUDIO/VIDEO OUT 端子を接続する。

音声の接続にオーディオコード、映像の接続に一般的なビデオコードを使用します。

3　録画機器にデジタル音声出力がある場合は、本機のデジタル入力と接続する。

右の接続例では、光ファイバーケーブルを使用して **OPT1（DVR/VCR）** 端子に接続しています。[2]

メモ

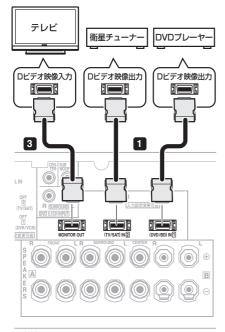
1　HDD/DVD レコーダーなどに D ビデオ映像出力端子があるときは、**D4 VIDEO (TV/SAT) IN2** 端子に接続することでより良い映像をお楽しみいただくことができます。詳しくは「D4 ビデオ映像端子を使用する」（15 ページ）をご覧ください。

2　映像機器に同軸デジタル音声出力しかない場合は、同軸デジタルケーブルを使って本機の **COAX1(DVD/BD)** 端子に接続することができます。その際、本機の入力設定で同軸デジタル入力端子の設定を行う必要があります。詳しくは「入力に関する設定を行う (Input Assign)」（44 ページ）をご覧ください。

D4 ビデオ映像端子を使用する

D4 ビデオ映像端子での接続はコンポジット接続に比べ高画質な映像を伝送します。入力機器とテレビの両方に D 端子がある場合、プログレッシブスキャン映像やちらつきのない高品位な映像をお楽しみいただけます。詳しくはテレビと入力機器の取扱説明書をご覧になり、それらがプログレッシブスキャン映像に対応しているか確認してください。

本機

 重要

D4 VIDEO 端子で入力機器と接続して高画質な映像を楽しむには、テレビを本機の **D4 VIDEO MONITOR OUT** 端子に接続する必要があります。

1　入力機器の D ビデオ映像出力と本機の D4 VIDEO IN 端子を接続する。

D 端子ケーブルを使用します。

2　必要に応じて D4 VIDEO IN 端子の設定を行う。

次の初期値のとおりに接続していない場合のみ設定が必要です。

- **D4 Video-1 － DVD**
- **D4 Video-2 － TV**

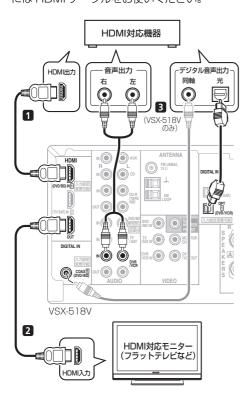
詳しくは「D4 映像入力を設定する」（45 ページ）をご覧ください。

3　テレビの D ビデオ映像入力と、本機の D4 VIDEO MONITOR OUT 端子を接続する。

D 端子ケーブルを使用します。

HDMI 端子を使用する

HDMI とは High-Definition Multimedia Interface の略です。パソコンディスプレイなどで使われている DVI（Digital Video Interface）端子を拡張した、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースの規格です。

本機では、HDMI 対応機器と HDMI 対応のフラットテレビなどを接続することで、圧縮されていないデジタル映像と音声 (ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、またはリニア PCM) を 1 本のケーブルで伝送できます。接続には HDMI ケーブルをお使いください。

1　HDMI ケーブルを使用して、HDMI 対応機器の HDMI 出力と、本機の HDMI IN 1 または HDMI IN 2 端子を接続する。

2　HDMI ケーブルを使用して、HDMI 対応モニターの HDMI 入力と、本機の HDMI OUT 端子を接続する。

ケーブル端子部のしるしが本機の HDMI 端子の左側になるようにして接続します。

3　*VSX-518V のみ :* **HDMI 機器の音声を本機で聞く場合は、アナログまたはデジタル音声ケーブルでの接続も行う。**

必ずリアパネルの音声／映像入力を設定した音声入力端子に接続してください（左の図は DVR/VCR 端子に接続した場合の例です）。

- この接続をしなかった場合、HDMI 機器の音声はテレビ（フラットテレビなど）から出力されます（本機からは音声は出力されません）。

4　接続した入力機器に合わせて、HDMI 入力の設定を行う。

接続が終わったら、本機の入力設定で HDMI 入力端子の設定を行う必要があります。詳しくは「入力に関する設定を行う (Input Assign)」（44 ページ）をご覧ください。

5　入力切換ボタンでステップ 4 で設定した入力を選択してから、レシーバーボタンを押したあとに、音声切換ボタンを押して音声入力信号を選択する。

フロントパネルのボタンで操作をすることもできます。詳しくは「入力信号を選択する」（33 ページ）をご覧ください。

- *VSX-918V のみ :*「AV 調整機能を使う」の HDMI 設定（35 ページ参照）で THRU を選択している場合は、HDMI 対応機器の音声はテレビ（フラットテレビなど）から出力されます（本機からは音声は出力されません）。

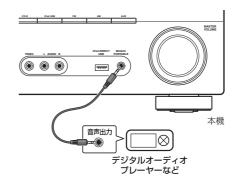
- 映像信号がテレビ（フラットテレビなど）の画面に表示されない場合は、HDMI 対応機器やテレビの解像度の設定を調整してみてください。なお、機器（テレビゲーム機など）によっては解像度の設定ができないことがあります。このときは（アナログの）コンポジットビデオコードで接続してください。
- アナログ（コンポジットまたは D4）映像入力から入力した映像信号は、**HDMI OUT** 端子から出力されません。

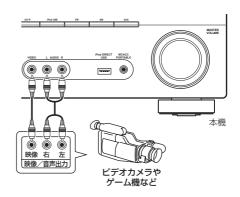
HDMI について

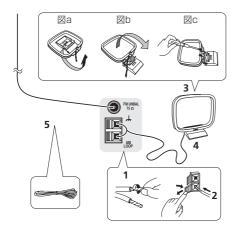
HDMI(High-Definition Multimedia Interface) とは 1 本のケーブルで映像と音声を受信するデジタル伝送規格です。ディスプレイ接続技術の DVI(Digital Visual Interface) を家庭向けのオーディオ機器用にアレンジしたものであり、高い帯域幅のデジタル内容保護 (HDCP) を実現した次世代テレビ向けのインターフェース規格です。
本機は HDMI 機器との接続を目的として設計されています。DVI 機器に接続した場合、DVI 機器によっては正常に動作しない場合があります。

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

フロント音声入力端子を使用する

フロントパネルの音声入力端子を使って音声機器を接続できます。接続した機器を再生するときは、**VIDEO/PORTABLE** ボタンを押して **PORTABLE** 入力を選択します。ステレオミニジャックケーブルを使用して、デジタルオーディオプレーヤーなどを接続できます。

フロント映像入力端子を使用する

フロントパネルの映像入力端子を使って機器を接続できます。接続した機器を再生するときは、**VIDEO/PORTABLE** ボタンを押して **VIDEO** 入力を選択します。一般的なコンポジット音声／映像コードを使用して、リアパネルの端子と同様にして接続します。

アンテナを接続する

AM ループアンテナと FM アンテナを下図のように接続します。受信状態と音質を良好にするには外部アンテナの接続をお勧めします（右記の「外部アンテナを接続する」をご覧ください）。

1　AM アンテナコードの先端の被覆を 2 本ともはがす。

2　端子のツメを開いて AM アンテナコードを確実に差し込み、ツメを閉じて固定する。

3　AM ループアンテナを組み立てる。

AM ループアンテナは図 a ～ b をご覧になり組み立ててください。

- 壁などに取り付けるときは、受信状態の良い場所にネジや画びょうなどを使って取り付けます（図 c）。

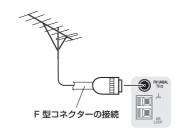
4　受信状態が良くて平らな場所に AM アンテナを設置する。

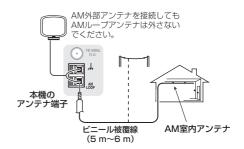
5　AM ループアンテナと同様に FM アンテナを接続する。

FM アンテナは受信状態を良好にするために、壁や窓枠などに沿って縦方向に十分に伸ばしてください。

外部アンテナを接続する

FM の受信感度を上げるために

F 型コネクターを使って、屋外用 FM アンテナを接続します。

AM の受信感度を上げるために

付属の AM ループアンテナを接続したまま、5 m ～ 6 m の長さの AM 外部アンテナ（ビニール被覆線）を AM LOOP 端子に接続します。屋外に設置するときは、受信感度を上げるためアンテナを水平に伸ばして使用してください。

スピーカーを接続する

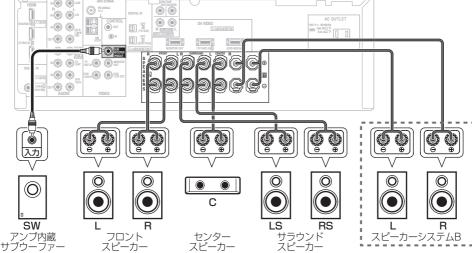
スピーカーの接続方法は状況によってさまざまですが、以下に示すのはサブウーファーを含む 6 本のスピーカーを接続した一般的な例です。

以下に示す方法を参考に、お持ちのスピーカーの数に合わせて接続してください。本機は最低 2 本のスピーカー（図のフロントスピーカー）が接続されていれば音を再生できますが、少なくとも 3 本、できれば全 6 本のスピーカーを接続することをお勧めします。なお、サブウーファーを使用しないときは、フロントスピーカーの設定を「**LARGE**」に設定してください（42 ページの「スピーカーの設定を行う」をご覧ください）。

スピーカー端子について、視聴位置の右側にあるスピーカーは **R** 端子に、左側にあるスピーカーは **L** 端子につなぎます。接続するときは、スピーカーの極性 (**+ / –**) と本機の極性 (**+ / –**) を必ず合わせてください。

- スピーカーは、インピーダンスが 6 Ω ～ 16 Ω のスピーカーをご使用ください。

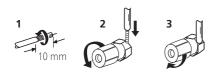
スピーカー端子 **B** に 2 本のスピーカーを接続して、他の部屋でステレオ音声で聞くこともできます。「スピーカー配置について」（20 ページ）を参考にして他の部屋にスピーカーを配置してください。スピーカーシステムの切り換えについては、21 ページをご覧ください。

すべての接続が終わってから、最後に電源コードをコンセントに差し込んでください。

スピーカーコードを接続する

スピーカー端子 A:

1　スピーカーコードの先端をねじる。

2　スピーカー端子を緩め、スピーカーコードを差し込む。

3　スピーカー端子をしめる。

スピーカー端子 B:

1　スピーカーコードの先端をねじる。

2　スピーカー端子のツメを開いて、スピーカーコードを確実に差し込む。

3　ツメを閉じて固定する。

スピーカー端子について

スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじり、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がリアパネルに接触したり、芯線どうしが接触すると保護回路が働いて電源がスタンバイ状態になることがあります。

接続には市販のスピーカーコードとオーディオコードをご使用ください。音質をよくするためには、より高品質なスピーカーコードをご使用ください。

 注意

スピーカー端子には非常に高い電圧が出力されます。感電の危険を避けるため、スピーカーを接続する前に必ず電源コードを抜いてください。

スピーカー配置について

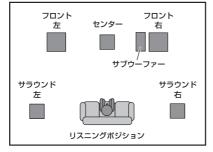
スピーカーは通常、製品設計により設置する場所が特定されています。床に置くフロア型もあれば、スタンドを使って設置することで最高の音質を発揮するタイプもあります。また、壁の近くに配置すべきものもあれば、壁から離して配置すべきものもあります。スピーカー配置で音質に影響のあるポイントを以下にまとめましたので、使用されるスピーカーの配置についての説明がありましたら参考にしてください。

- フロント左右スピーカーは、それぞれテレビから等距離になるように配置してください。
- テレビの近くに置くスピーカーは、防磁型のスピーカーをお勧めします。防磁型でないと磁力による干渉で、テレビの電源を入れたときに画面が変色したり色ズレなどを起こすことがあります。そのようなときはスピーカーをテレビから離してください。
- センタースピーカーは、テレビの音をより自然に再生するために、テレビの上か下に配置してください。また視聴位置からセンタースピーカーの距離は、フロントスピーカーの距離よりも近くならないようにしてください。
- サラウンドスピーカーは、視聴位置での耳の高さから 60 cm ～ 90 cm 上方に、少し下向きに配置してください。左右のスピーカーが向き合わないように置きます。
- 最適なサラウンド再生のために、以下の「スピーカー配置図」を参考にして各スピーカーを設置してください。安全と音質向上のため、しっかりと安定させて設置してください。

注意

センタースピーカーをテレビの上に置くときは必ず適切な方法で固定してください。地震などの振動によりスピーカーが落下して人がけがをしたり、物を破損する原因となります。

スピーカー配置図

下の図は 5.1 チャンネルのスピーカーの設置例です。

スピーカーシステムの切り換え

3 種類のスピーカーシステムの設定を **SPEAKERS** ボタンで切り換えることができます。

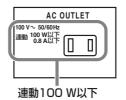
• フロントパネルの SPEAKERS ボタンを使用して、スピーカーシステムを切り換える。[1]

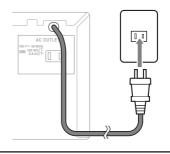
ボタンを押すたびに、以下のようにスピーカーシステムが切り換わります。

- **SP▶A** – スピーカー端子 **A** に接続されたスピーカーから音が出ます（サラウンド再生が可能です）。
- **SP▶B** – スピーカー端子 **B** に接続されたスピーカーから音が出ます（ステレオ再生となります）。
- **SP▶AB** – 上記 **A**（センターおよびサラウンドスピーカーからは音は出ません）と **B** の音声が同時に出力されます。マルチチャンネルソースの場合は、スピーカーシステム **A** および **B** から 2 ch ダウンミックス再生されます。

予備コンセント (AC OUTLET) を使用する

本機の STANDBY/ON ボタンによるオン／スタンバイ (オフ) の切り換えに連動して、接続した機器の電源をオン／オフできます。

接続した機器の消費電力が 100 W（0.8 A）を超えないようにしてください。

電源コードを接続する

すべての接続が終了したら電源コードを家庭用電源コンセント（AC 100 V）に接続します。[2]

メモ

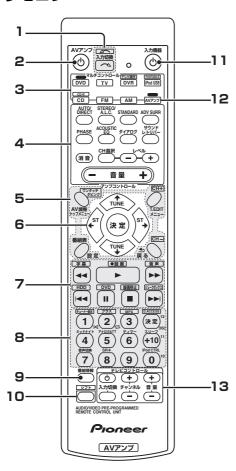
1 · サブウーファーからの音声出力は「スピーカーの設定を行う」（42 ページ）の設定によって出るときと出ないときがあります。また、**SP▶B** を選択しているときはLFE チャンネルはダウンミックスされないためサブウーファーからは音が出ません。

· ヘッドホンを **PHONES** 端子に差し込んでいる間は、スピーカーシステムは自動的にオフに切り換わります（ただしスピーカー端子 **B** からは音が出ます）。

2 旅行などで長期間本機を使用しないときは、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。

第 4 章：

各部の名称

リモコン

1　入力切換

再生する入力機器を選びます（**シフト**ボタンを押しながら使用すると、逆の順番で選択できます）。

2　AV アンプ ⏻

本機の電源を入／切します。

3　マルチコントロールボタン

操作したい機器を選びます。

「テレビ操作」、「PORTABLE」、「CD-R」を選ぶときは**シフト**を押しながらボタンを押します。

4　アンプコントロールボタン

AUTO/DIRECT

オートサラウンド再生（29 ページ）とダイレクト再生（31 ページ）を切り換えます。

STEREO/A.L.C.

ステレオ再生およびオートレベルコントロールモード（30 ページ）、フロントサラウンド・アドバンス再生を切り換えます（31 ページ）。

STANDARD

サラウンドモードの Dolby Pro Logic の各モードを切り換えます（29 ページ）。

ADV SURR

アドバンスドサラウンドモードを切り換えます（30 ページ）。

PHASE

PHASE CONTROL モードの ON/OFF を切り換えます（9 ページ）。

ACOUSTIC EQ

アコースティックキャリブレーション EQ 設定を選択します（39 ページ）。

ダイアログ

ダイアログエンハンスメント機能の ON/OFF を切り換えます（35 ページ）。

サウンドレトリバー

サウンドレトリバー機能の ON/OFF を切り換えます（31 ページ）。

消音

消音します。もう一度押すと解除されます。

CH 選択
チャンネルを選択し、**レベル+/–**ボタンを使用してチャンネルレベルの調整をします。

レベル+/–
CH 選択ボタンと組み合わせてレベルを調整します。

音量+/–
音量を調節します。

5　チューナー／他機器操作／設定ボタン
以下のボタン操作は**マルチコントロール**ボタンで操作する機器を選択したあとに操作できます。

ワンタッチダビング
（シフト+トップメニュー）
HDD/DVD レコーダーで、DVD から HDD（ハードディスク）へ、HDD から DVD へワンタッチでダビングします。

AV 調整
AV 調整機能でサラウンド効果の設定などを行います。

トップメニュー
DVD ディスクのトップメニューを表示します。

番組表
衛星放送などの番組表を表示します。

設定
本機のシステムセットアップになります。

戻る
本機のシステムセットアップで 1 つ前の画面に戻ります。

T.EDIT
チューナー操作で、放送局を記憶させたり、名前をつけたりします。

メニュー
DVD やテレビなどのメニュー画面を表示します。

CH+/–
（シフト+T.EDIT/ シフト+戻る）
HDD/DVD レコーダーでチャンネルを選択します。

6　↑↓←→（TUNE↑/↓、ST←/→）/ 決定
本機のシステムセットアップ、または各種メニュー操作に使用します。また、**TUNE↑/↓**はラジオの放送局を合わせるために、**ST←/→**は記憶した放送局の呼び出しに使用します。

7　他機器操作ボタン
►、■ などのボタン操作はマルチコントロールで操作する機器を選択してから行います。
以下の DVD または DVD レコーダーの操作は**シフト**を押しながら行います。

字幕
ディスクに収録された字幕を選びます。

音声
ディスクに収録された音声を選びます。

録画
DVD または HDD に録画します。

録画停止
録画を停止します。

HDD、DVD
HDD/DVD レコーダーで、DVD と HDD の操作を切り換えます。

ジュークボックス
ジュークボックス機能を使用します。

8　数字ボタン／チューナーボタン／アンプ操作ボタン
数字ボタンは、チューナー操作で周波数を入力したり、CD や DVD などのトラック番号などを選択します。
決定（DISC）ボタンは、入力されたテレビのチャンネルなどを決定します。また、CD チェンジャーなどではディスクを選択します。
以下のチューナーの操作は**シフト**を押しながら行います。

チューナー表示
ディスプレイに表示されている内容を切り換えます。

クラス
放送局を記憶する 3 つのクラスを切り換えます。

MPX
FM 放送の受信でステレオとモノラルを切り換えます。受信する電波が弱いときにモノラルに切り換えると音声が聴き取りやすくなります。

D.ACCESS
数字ボタンを使って周波数を直接入力するときに使用します。

以下のアンプ操作は **AV アンプ**を押してから行います。

ミッドナイト
ミッドナイト機能またはラウドネス機能を選択します（34 ページ）。

アナログ ATT
インプットアッテネーターを ON/OFF します。

ディマー
フロントパネル表示部の明るさを 4 段階で切り換えます。

スリープ
スリープタイマーを設定します。設定時間は 30 分、60 分、90 分の中から選びます。設定後に**スリープ**ボタンを押すことでタイマーの経過時間を確認することができます。

音声切換
入力信号を選択します（33 ページ）。

SR+ *（VSX-918V のみ）*
SR+ の連動モードを ON/OFF します。

iPod CTRL
iPod の操作を本機側と iPod 側とで切り換えます。

9 番組情報
衛星放送などで、番組情報を表示します。

10 シフト
四角で囲まれたボタン（たとえば D.ACCESS など）は**シフト**ボタンを押しながら操作します。

11 入力機器 ⏻
本機に接続した他機器の電源を入／切します。

12 AV アンプ
リモコンを本機の操作モードに切り換えます。システムセットアップなどを行うときに使用します。

13 テレビコントロール
マルチコントロールの**テレビ操作**ボタンに割り当てられたテレビを操作します。

TV ⏻
テレビの電源を入／切します。

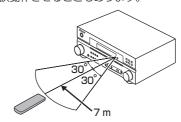
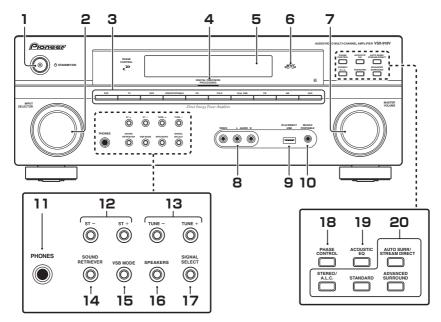
入力切換
テレビの映像入力を切り換えます。

チャンネル+/–
チャンネルを切り換えます。

音量+/–
テレビの音量を調節します。

リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。

- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作できない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を出す機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用した他のリモコンを使用すると、本機が誤動作することがあります。逆に本機のリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

フロントパネル

1　⏻ STANDBY/ON

2　INPUT SELECTOR ダイヤル

再生する入力機器を選びます。

3　入力ファンクション切り換えボタン

再生する入力機器を選びます。

4　Digital Precision Processing インジケーター *（VSX-918V のみ）*

デジタル信号を処理しているときに点灯します。

5　ディスプレイ

「ディスプレイ」（26 ページ）をご覧ください。

6　MCACC インジケーター

アコースティックキャリブレーション EQ を ON にしているときに点灯します（39 ページ）。

（Auto MCACC 設定（6 ページ）またはアコースティックキャリブレーション EQ を自動で設定（39 ページ）したあとは、アコースティックキャリブレーション EQ は自動的に **ALL CH ADJUST** に設定されます。）

7　MASTER VOLUME ダイヤル

8　VIDEO/AUDIO 入力端子

ビデオカメラやゲーム機などを接続することができます（17 ページ）。

9　iPod DIRECT USB 入力端子

iPod またはマスストレージクラスに対応した USB メモリーを接続して再生することができます（50、52 ページ）。

10 MCACC PORTABLE 端子
付属のセットアップ用マイクを接続します（6 ページ）。また、ステレオミニジャックを使用してポータブル再生機器などを接続することができます（17 ページ）。

11 PHONES 端子
ヘッドホンを接続します。ヘッドホンが接続されているときは、スピーカーからは音が出ません。

12 ST +/–
ラジオ放送の記憶させた放送局を選択します。

13 TUNE +/–
ラジオ放送の周波数を選択します。

14 SOUND RETRIEVER
サウンドレトリバー機能の ON/OFF を切り換えます（31 ページ）。

15 VSB MODE
バーチャルサラウンドバックモードの ON/OFF を切り換えます（32 ページ）。

16 SPEAKERS
スピーカーシステムを切り換えます（21 ページ）。

17 SIGNAL SELECT
入力信号を選択します（33 ページ）。

18 PHASE CONTROL
PHASE CONTROL モードの ON/OFF を切り換えます（9 ページ）。

19 ACOUSTIC EQ
アコースティックキャリブレーション EQ を選択します（32、39 ページ）。

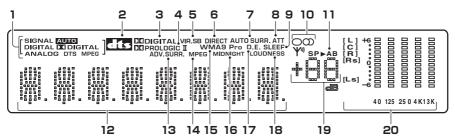
20 リスニングモードボタン

AUTO SURR/STREAM DIRECT
オートサラウンド再生（29 ページ）とダイレクト再生（31 ページ）を切り換えます。

STEREO/A.L.C.
ステレオ再生およびオートレベルコントロールモード（30 ページ）、フロントサラウンド・アドバンス再生を切り換えます（31 ページ）。

STANDARD
サラウンドモードの Dolby Pro Logic の各モードを切り換えます（29 ページ）。

ADVANCED SURROUND
アドバンスドサラウンドモードを切り換えます（30 ページ）。

ディスプレイ

1 SIGNAL SELECT インジケーター
再生している機器の入力信号の種類が点灯します。

AUTO
入力信号の切り換えが **AUTO** のときに点灯します（33 ページ）。

DIGITAL
デジタル音声信号が入力されているときに点灯します。

DD DIGITAL
ドルビーデジタル信号が入力されているときに点灯します。

ANALOG
アナログ信号が入力されているときに点灯します。
DTS
DTS 信号が入力されているときに点灯します。
MPEG
MPEG-2 AAC 信号が入力されているときに点灯します。

2 dts
DTS マルチチャンネル信号をデコードしているときに点灯します。

3 DD DIGITAL
Dolby Digital マルチチャンネル信号をデコードしているときに点灯します。

4 DD PRO LOGIC II
ドルビープロロジック II 処理をしているときに点灯します。詳しくは「サラウンドで再生する」(29ページ)をご覧ください。

5 VIR.SB
バーチャルサラウンドバック処理時に点灯します(32 ページ)。

6 DIRECT
ダイレクト再生時に点灯します。ダイレクト再生時はトーンコントロールなどの機能が無効になり、入力音声の音源を忠実に再生します(31 ページ)。

7 AUTO SURR.
オートサラウンドモード選択時に点灯します。詳しくは「オートサラウンドで再生する」(29 ページ)をご覧ください。

8 ATT
インプットアッテネーター機能が選ばれているときに点灯します。

9 SLEEP
スリープタイマー設定時に点灯します(24 ページ)。

10 チューナーインジケーター

ラジオ放送を受信しているときに点灯します。

(MONO インジケーター)
MPX ボタンを押してモノラル受信に設定しているときに点灯します(47 ページ)。

(STEREO インジケーター)
ステレオで受信しているときに点灯します。

11 スピーカーインジケーター
現在選択されているスピーカーシステムが点灯します(21 ページ)。

12 キャラクター表示部

13 ADV.SURR.(アドバンスドサラウンド)
アドバンスドサラウンドモードに設定されているときに点灯します(30 ページ)。

14 MPEG
MPEG-2 AAC マルチチャンネル信号をデコードしているときに点灯します。

15 WMA9 Pro
WMA9 Pro 信号をデコードしているときに点灯します。

16 MIDNIGHT
ミッドナイト機能を使用しているときに点灯します(34 ページ)。

17 D.E.
ダイアログエンハンスメント機能を使用しているときに点灯します(35 ページ)。

18 LOUDNESS
ラウドネス機能を使用しているときに点灯します(34 ページ)。

19 音量表示

20 アコースティックキャリブレーション EQ/サウンドレトリバー /HDMI インジケーター

アコースティックキャリブレーション EQ の各チャンネルの周波数特性を表示します。詳しくは「補正カーブを確認する」（41 ページ）をご覧ください。また、サウンドレトリバー機能が ON のときは **[L]** と **[R]** が点灯します（31 ページ）。

VSX-918V のみ： HDMI 接続の状態を以下のように表示します。

HDMI 対応機器を接続中に点滅し、機器が接続されると点灯します。

MPEG-2 AAC

MPEG-2 オーディオの標準方式の一つで、BS デジタルや地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。高圧縮率ながら高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236
5848391	4,914,701
5,291,557	5,235,671
5,451,954	07/640,550
5 400 433	5,579,430
5,222,189	08/678,666
5,357,594	98/03037
5 752 225	97/02875
5,394,473	97/02874
5,583,962	98/03036
5,274,740	5,227,788
5,633,981	5,285,498
5,481,614	5,490,170
5,592,584	5,264,846
5,781,888	5,268,685
08/039,478	5,375,189
08/211,547	5,581,654
5,703,999	05-183,988
08/557,046	5,548,574
08/894,844	08/506,729
5,299,238	08/576,495
5,299,239	5,717,821
5,299,240	08/392,756
5,197,087	

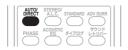
第５章：

機器の再生

重要

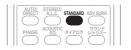
- PCM 88.2 kHz/96 kHzやDTS 96 kHz (24 bit)、WMA9 Proなどの音声信号が入力された場合、選択することができない機能があります。

オートサラウンドで再生する

AUTO SURROUND モードは、本機のさまざまな音声再生モードのなかで最も簡単に最適な再生方式を選択します。再生している音声信号を本機が自動で検出して、マルチチャンネルやステレオなど最適な再生方法を選択します。[1]

- **再生中に、AUTO/DIRECT を押す。**[2]

フロントパネル表示部に **AUTOSURR.** と表示されるまで、繰り返し押してください。次にこのモードが自動選択したデコード名称または音声フォーマット名称が表示されます。どのフォーマットが選ばれたかは、フロントパネルのデジタルフォーマットインジケーターを確認してください（26 ページ）。

サラウンドで再生する

本機は、すべての音声をサラウンド再生することができます。ただし、スピーカーの設定や入力信号の種類によって、選択できるサラウンド再生の種類は異なります。[3]

- **再生中に、STANDARD を押す。**

Dolby Digital やDTS、ドルビーサラウンドなどのフォーマットで圧縮された信号については、適切なデコード形式が自動的に選ばれ、表示部に名称が表示されます。

ステレオ 2 ch 音声信号のときは、**STANDARD** ボタンを押して以下のモードを選択できます。

- **DD Pro Logic II MOVIE** －最大 5.1ch サラウンドで、映画に適しています。
- **DD Pro Logic II MUSIC**[4] －最大 5.1 ch サラウンドで、音楽に適しています。
- **DD Pro Logic II GAME** －最大 5.1 ch サラウンドで、ゲームに適しています。
- **DD Pro LOGIC** － 4.1 ch サラウンドです（サラウンドスピーカーからの音声はモノラルです）。

メモ

1 ・ステレオ 2 ch の（マトリックス）サラウンドフォーマットは、**DD Pro Logic II MOVIE** でデコードされます（詳しくは「サラウンドで再生する」（上記）をご覧ください）。
・ヘッドホンを接続したときや、**DVD 5.1 ch** 入力を選択すると AUTO SURROUND モードは解除されます。

2 ダイレクト再生機能も選択することができます。詳しくは、「ダイレクト再生機能を使う」（31 ページ）をご覧ください。

3 スピーカーの設定（42 ページ）でフロントスピーカー以外を **NO** に設定した場合は、フロントパネル表示部に **2CH IN** と表示され、サラウンド音声は出力されません。

4 **DD Pro Logic II MUSIC** モードでステレオ 2 ch 音声を聴いている場合、**C WIDTH**、**DIMEN.**、**PNRM.** の 3 つの項目を調整できます。詳しくは「AV 調整機能を使う」（34 ページ）をご覧ください。

ADVANCED SURROUND モードの効果を使う

ADVANCED SURROUND モードでは、音にさまざまなサラウンド効果を加えます。お好みに応じて以下のモードを選択します。[1]

- **ADV SURR を押してアドバンスドサラウンドモードを選択する。**
  - **ACTION** －アクション映画などをダイナミックに再生します。
  - **DRAMA** －映画などのセリフを明瞭に再生します。
  - **MONO FILM** －モノラル音声の映画をサラウンド再生します。
  - **ENT. SHOW** －ミュージカルなどの音楽系ソースに適したモードです。
  - **EXPANDED** －ステレオ 2 ch 音声をマルチチャンネルのサラウンド音声に変えて再生します。[2]
  - **TV SURR.** －モノラル／ステレオ音声のテレビ放送などをサラウンド再生します。
  - **ADV. GAME** －テレビゲームに適したモードです。
  - **SPORTS** －スポーツ番組に適したモードです。
  - **ROCK/POP** －コンサートホールのような臨場感で再生します。
  - **UNPLUGED** －アコースティック音楽系ソースに適したモードです。
  - **X-STEREO** －ステレオ 2 ch 音声をマルチチャンネル音声にして、すべてのスピーカーを使って再生します。
  - **PHONESUR.** － ヘッドホンで聴いているとき、サラウンド効果を与えます。

ステレオで再生する

STEREO を選択した場合、すべての信号を 2 ch（設定によってはサブウーファーからも出力し、最大 2.1 ch）で再生します。

Dolby Digital や DTS などのマルチチャンネル信号はステレオ音声にダウンミックスされます。

A.L.C.（オートレベルコントロール）を選択すると、ポータブルデジタルオーディオプレーヤーなどに録音された音楽ソースごとの音量差を、本機で自動的に均一にしてステレオ再生します。

- **再生中に、STEREO/A.L.C. を押してステレオ再生モードを選ぶ。**

押すたびに次のように切り換わります。

- **STEREO** － システムセットアップやミッドナイト／ラウドネス機能、トーンコントロールなどが反映されたステレオ再生を行います。
- **A.L.C.** － オートレベルコントロールモードで再生します。
- **F.S.S.FOCUS** － 「フロントサラウンド・アドバンス機能を使う」をご覧ください。
- **F.S.S. WIDE** － 「フロントサラウンド・アドバンス機能を使う」をご覧ください。

メモ

1 ・ヘッドホンを接続しているときに **ADV SURR** を押した場合は、自動的に **PHONESUR.** に切り換わります。
・ADVANCED SURROUND モードを選択しているときは、**EFFECT** 設定を調整して効果のレベルを調整することができます。詳しくは「AV 調整機能を使う」（34 ページ）をご覧ください。

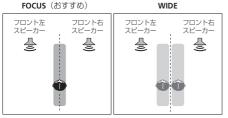
2 ドルビーサラウンドや 2 ch 収録されているソースに効果的です。STANDARD モードよりも広がりのある音場を実現します。

フロントサラウンド・アドバンス機能を使う

フロントサラウンド・アドバンスモードは、左右のフロントスピーカーとサブウーファーだけで自然なサラウンド再生を行います。

• 再生中に、STEREO/A.L.C. を押してフロントサラウンド・アドバンスモードを選ぶ。

押すたびに次のように切り換わります。

- **STEREO** － 「ステレオで再生する」（30 ページ）をご覧ください。
- **A.L.C.** － 「ステレオで再生する」（30 ページ）をご覧ください。
- **F.S.S.FOCUS** － 臨場感のある自然なサラウンド効果が得られます。フロントスピーカーから等距離の直線上（前後は移動可能）で視聴してください。
- **F.S.S. WIDE** － **FOCUS** モードよりも横に広い範囲でサラウンド効果が得られます。お二人で横に並んで視聴するときに便利です。[1]

ダイレクト再生機能を使う

ダイレクト再生機能を使用すると、入力信号を加工せずにソースに忠実な再生を行います。

• 再生中に、AUTO/DIRECT を押してダイレクト再生機能を選ぶ。

押すたびに次のように切り換わります。

- **AUTOSURR.** － 「オートサラウンドで再生する」（29 ページ）をご覧ください。
- **DIRECT** － スピーカーに関するシステムセットアップ設定（スピーカーの設定、スピーカー出力レベル、スピーカーまでの距離）とデュアルモノラル音声の設定および **C WIDTH**、**DIMEN.**、**PNRM.** の設定のみ反映して再生します。入力信号が忠実に再生されます。また、入力信号がアナログ信号の場合はスピーカー出力レベルの設定のみ反映され、それ以外のすべてのデジタル処理は無効となります。

サウンドレトリバー機能を使う

MP3 などの圧縮音声は圧縮処理される際、削除されてしまう部分が発生します。サウンドレトリバー機能では、DSP 処理によってその削除されてしまった部分を補い、音の密度感、抑揚感を向上させます。[2]

• サウンドレトリバーを押して、サウンドレトリバー機能の ON、OFF を選択する。

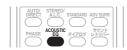
メモ

1 **F.S.S. WIDE** モードを選択するときは、Auto MCACC 設定（6 ページ）を行うことでより自然なサラウンド効果が得られます。

2 サウンドレトリバー機能は 2 ch の音声信号にのみ有効です。

アコースティックキャリブレーションEQ（周波数特性の補正）を選択する

- 工場出荷時の設定：**EQ OFF**
  （Auto MCACC またはアコースティックキャリブレーション EQ の自動設定を行ったときは自動的に **ALL CH** に設定されます）

「Auto MCACC で自動設定する」（6 ページ）や「アコースティックキャリブレーション EQ 機能を設定する」（39 ページ）で設定された周波数特性の補正の種類を選びます。アコースティックキャリブレーション EQ について、詳しくはそれぞれのページをご覧ください。

• 再生中に、ACOUSTIC EQ を押して補正タイプを選択する。

押すたびに次のように切り換わります。

- **ALL CH** －スピーカーシステム全体をフラットに補正した周波数特性です。
- **F. ALIGN** － スピーカーシステム全体をフロントチャンネルの周波数特性に合わせます。
- **CUSTOM1/2** － 上記 2 つの補正タイプをお好みに調整した周波数特性です（「補正カーブを保存する」（39 ページ）や「自動測定された補正カーブを手動調整する」（40 ページ）で「C1」、「C2」と表示されます）。
- **EQ OFF** － 補正を行いません。

ALL CH、F. ALIGN、CUSTOM1/2 を選択したときはフロントパネルの MCACC インジケーターが点灯します。[1]

バーチャルサラウンドバックモードを選択する

仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出すモードです。入力信号の種類やリスニングモードの選択によっては、効果が出ない場合があります。[2]

• フロントパネルの VSB MODE を押してバーチャルサラウンドバックモードを設定する。

押すたびに次のように切り換わります。

- **VSB ON** － リスニングモードによって、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出します。
- **VSB OFF** － 仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出しません。

メモ

1 **DVD 5.1 ch** 入力や DIRECT 再生機能のとき、WMA9 Pro 信号を入力しているときは使用できません。また、ヘッドホンを接続しているときは効果がありません。

2 ・ヘッドホンを接続しているときや、STEREO モード、DIRECT モード、オートレベルコントロールモード、フロントサラウンド・アドバンスモードのときは効果がありません。また、サラウンドスピーカーを **NO** に設定しているとき（「スピーカーの設定を行う」（42 ページ）参照）は、バーチャルサラウンドバックモードを選択することはできません。
・サラウンドチャンネルの効果がないソースでは、バーチャルサラウンドバックモードの効果を得ることはできません。

他機器を再生する

1 再生したい機器の電源を入れる。

2 本機の電源を入れる。

3 再生したい機器の入力を選択する。
マルチコントロールボタン（または**入力切換**ボタン）を使用します。

4 手順 1 の機器を再生する。

入力信号を選択する

- 工場出荷時の設定：**AUTO**

入力信号の選択には、デジタル接続とアナログ接続の両方が必要です。[1]

• AV アンプを押してから音声切換を押して、接続している機器の入力信号を選択する[2]。
押すたびに次のように切り換わります。

- **AUTO** – **HDMI** *（VSX-918V のみ）*、**DIGITAL**、**ANALOG** の順に優先して、自動的に入力を選択します。
- **HDMI** *（VSX-918V のみ）* – HDMI 入力を選択します。
- **DVD 5.1ch** – DVD 入力のときのみマルチチャンネルアナログ入力を選択します（右記）。
- **ANALOG** – アナログ入力を選択します。
- **DIGITAL** – デジタル入力を選択します。

DIGITAL または **AUTO** に設定した場合、Dolby Digital 信号が入力されると DD DIGITAL インジケーターが点灯します。また DTS 信号が入力されると DTS インジケーターが点灯します。

HDMI に設定した場合、ANALOG および DIGITAL インジケーターがともに消灯します（VSX-918V のみ）。

マルチチャンネルアナログ入力を再生する

DVD 5.1CH INPUT 端子に接続した機器の各チャンネルの音声を、すべてアナログ処理のまま忠実に高 SN 比で再生します。再生するときは本機の入力を DVD 5.1ch にします。接続については「マルチチャンネルアナログ機器を接続する」（12 ページ）をご覧ください。[3]

1 DVD を押す。

2 AV アンプを押してから音声切換を押して DVD 5.1 ch を選択する [2]。
ディスプレイに DVD 5.1ch と表示され ANALOG インジケーターが点灯します。

フロント音声入力を再生する

フロントパネルの **MCACC PORTABLE** 端子に接続した機器を再生するときは、本機の入力を **PORTABLE** にします。

• PORTABLE（シフト＋iPod USB）を押す。
フロントパネルの **VIDEO/PORTABLE** でも選択できます。

メモ

1 · 本機で再生できるデジタル信号の形式は、Dolby Digital、PCM (32 kHz ～ 96 kHz) 、DTS 、MPEG-2 AAC および WMA9 Pro です。その他のデジタル信号のときは、**ANALOG** を選択してください。
· **ANALOG** を選択した状態で DTS 対応の LD プレーヤーや CD プレーヤーを再生すると、デジタルノイズが発生することがあります。この場合、入力信号は **DIGITAL** を選択してください。
· DVD プレーヤーによっては DTS 信号が出力できないなど、再生できるデジタル信号に制限があります。詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

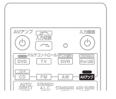
2 フロントパネルの **SIGNAL SELECT** ボタンで操作することもできます。

3 マルチチャンネルアナログ入力の再生時は、音量とチャンネルレベルのみ調整することができ、すべてのリスニングモードとサラウンド機能は使用することができなくなります。

AV 調整機能を使う

AV 調整機能でサラウンド効果の設定ができる項目を以下に説明します。

重要

- AV 調整機能は、**音声切換**ボタンで **DVD 5.1ch** 入力を選択しているときは使用できません。
- 入力音声信号の種類や本機の設定の状態によっては、AV 調整機能の表示されない項目があります。

1　リモコンの AV アンプを押してから、AV 調整を押す。

本機の設定や選択されているモードによっては項目が表示されないことがあります。表の下の注記をご確認ください。

2　⬆/⬇ ボタンで調整したい項目を選ぶ。

各項目で調整できる内容は以下の表のとおりです。選択項目の初期値は**太字**で示しています。

3　必要に応じて、⬅/➡ ボタンで設定を選ぶ。

設定項目	内容	選択項目
MIDNIGHT（ミッドナイト）[a]/ **LOUDNESS**（ラウドネス）[a]	ミッドナイト機能は、サラウンド音声の映画を小音量で見るときに効果的です。音量によってその効果は調整されます。ラウドネス機能は、音楽を聴くときに小音量でも低域、高域のレベルを自然に調整して聴きやすくします。	**M/L OFF** MIDNIGHT LOUDNESS
BASS（低音）[b]	再生している音の低音や高音を調整します。	–6 ～ +6 (dB) 初期値：**0** (dB)
TREBLE（高音）[b]		–6 ～ +6 (dB) 初期値：**0** (dB)
C WIDTH（センター幅）[c] （センタースピーカーを使用しているときのみ有効です）	センターチャンネルの音をフロント左／右スピーカーに振り分けて、音の調和をもたらします。0 はセンタースピーカーからのみの出力で、7 はセンターチャンネルの音声すべてを左右のフロントスピーカーに振り分けます。	0 ～ 7 初期値：**3**
DIMEN.（ディメンション）[c]	リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整することで広がりのある音場を創り出すことができます。+3 は前方の音場が強くなり、–3 は後方の音場が強くなります。	–3 ～+3 初期値：**0**
PNRM.（パノラマ）[c]	前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルにつなげるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。	**OFF** ON
EFFECT（エフェクト）	ADVANCED SURROUND モードを選んだときの効果レベルを設定します。（各モードで別々に設定することができます。）	10 ～ 90 初期値：**70** (X-STEREO 選択時の初期値は **90**)

設定項目	内容	選択項目
デュアルモノラル [d]	モノラルの音声チャンネルを 2 つ持つデジタル信号をデュアルモノラル信号といいます。ここではデュアルモノラル信号が入力されたときに再生する音声を選択することができます。デュアルモノラル信号はあまり多くはありませんが、BS デジタル放送（MPEG-2 AAC）のモノラルの二カ国語放送や音声多重放送で使用されています。 • ch1 － チャンネル 1 の音声のみを再生します。 • ch2 － チャンネル 2 の音声のみを再生します。 • Lch1.Rch2 －両方のチャンネルの音声をフロントスピーカーから再生します。	**ch1** ch2 Lch1.Rch2
DRC（ダイナミックレンジコントロール）	ドルビーデジタルや DTS で収録された映画の音声について、ダイナミックレンジの圧縮量を選択します。音量を下げてサラウンドを楽しむときでも、微少な音が聞き取りやすくなります。 • OFF － ダイナミックレンジを圧縮しません（音量が大きいときは、OFF にすることをお勧めします）。 • MAX － ダイナミックレンジを最大に圧縮します（大きな音を減少させて、小さな音を増大させます）。 • MID －ダイナミックレンジを多少圧縮します。	**OFF** MAX MID
ダイアログエンハンスメント [e]	音に定位感を持たせることで映画／ドラマのセリフや音楽のボーカルを際立たせ、より聞き取りやすい音にします。	**OFF** ON
DELAY（サウンドディレイ） *(VSX-918V のみ)*	DVD ソフトなどで、映像の動きの方がセリフなどの音声より遅れている場合、音声全体を遅らせることで、映像の動きと音声とを合わせることができます。	**0.0** ～6.0 フレーム（0.1 間隔） （1 フレーム＝1/30 秒（NTSC））
LFEATT（LFE アッテネーター）	ドルビーデジタルや DTS 音声には、LFE（超低域音声成分）が含まれていることがあります。LFE レベルが大きくて、スピーカーからの音声に歪みが生じるときは、LFE レベルをアッテネート（減衰）します。 • LFEATT0 － 収録されているレベルのまま再生します（通常はこの設定をお勧めします ）。 • LFEATT10 － LFE レベルを 10 dB アッテネート（減衰）します。 • LFEATT** － LFE 音声を出力しません。	**LFEATT0** LFEATT10 LFEATT**
HDMI *(VSX-918V のみ)*	HDMI IN に入力された音声を、どのように再生するかを設定します。「THRU」に設定したときは本機からは音が出なくなります。 • AMP － 本機に接続したスピーカーで再生 • THRU － HDMI OUT と接続したテレビ（フラットテレビなど）で再生	**AMP** THRU

a. ミッドナイト / ラウドネス機能は、**ミッドナイト**ボタンで調整することもできます。

b. 低音 / 高音の調整は、STEREO モード、オートレベルコントロールモード、フロントサラウンド・アドバンスモードのときのみ使用できます。

c. **Pro Logic II MUSIC** モードでステレオ 2 ch 音声を入力しているときのみ使用できます。

d. デュアルモノラルの設定は、HDD/DVD レコーダーで録画された二カ国語放送などについてはドルビーデジタル音声か DTS 音声をデュアルモノラルモードで録画されたもののみ有効です。

e. ダイアログエンハンスメント機能は、**ダイアログ**ボタンで調整することもできます。

第 6 章：
システムセットアップ設定

システムセットアップで本機の設定をする

本機の詳細な設定のしかたを説明します。また、それぞれのスピーカーをお好みで調整する方法も説明します。

1　本機とテレビの電源を入れる。

AV アンプ ⏻ ボタンを押して、本機の電源を入れます。

2　AV アンプボタンを押してから、設定ボタンを押す。

テレビにシステムセットアップ画面が表示されます。

リモコンの ⬆/⬇/⬅/➡ と**決定**ボタンを使って、操作項目を選びます。

前の画面に戻るには、**戻る**ボタンを押します。

3　調整したいシステムセットアップ項目を選んで設定を行う。[1]

- 上記画面の「Other Setup」が表示されるのは VSX-918V のみです。

- **Auto MCACC** – サラウンドの自動設定です。簡単に高精度な設定を行うことができます。詳しくは「Auto MCACC で自動設定する」（6 ページ）をご覧ください。
- **Manual MCACC** – サラウンドの詳細な設定やアコースティック EQ の設定を手動で調整することができます。詳しくは「手動で MCACC の設定をする (Manual MCACC)」（37 ページ）をご覧ください。
- **Manual SP Setup** – 接続しているスピーカーの大きさ、数、距離と全体的な音のバランスを設定します。詳しくは「聴感によるスピーカーの設定を行う (Manual SP Setup)」（41 ページ）をご覧ください。
- **Input Assign** – デジタル入力端子や D ビデオ映像入力端子に機器を接続するときに設定します。詳しくは「入力に関する設定を行う (Input Assign)」（44 ページ）をご覧ください。
- **Other Setup** *(VSX-918V のみ)* – SR+ について設定します。詳しくは「その他の設定を行う（Other Setup)」（46 ページ）をご覧ください。

4　設定ボタンを押してシステムセットアップを終了する。

戻るボタンを数回押すことでもシステムセットアップを終了できます。

メモ

1 ・**PORTABLE** 入力のときは、システムセットアップ設定を行うことができません。
　・**設定**ボタンを押すことで、いつでも設定を終了することができます。

手動で MCACC の設定をする (Manual MCACC)

サラウンドの設定をより詳細に調整したいときは手動 MCACC でお好みに合わせた調整を行うことができます。ここで手動設定を行う前に、「Auto MCACC で自動設定する」（6 ページ）で Auto MCACC を行ってください。

ここで一度調整を行った場合、再度調整する必要はありません。ただし、スピーカーの位置を変更したり、新しいスピーカーに変更したときは再度調整してください。

重要

- 手動 MCACC ではセットアップ用マイクが必要な設定があります。その場合は、マイクをフロントパネルに接続し、視聴位置で耳の高さになるよう設置します。詳しくは「Auto MCACC で自動設定する」（6 ページ）をご覧ください。また、マイクを使った測定時の騒音や干渉については「Auto MCACC 設定時におけるその他の問題」（8 ページ）をご覧ください。
- サブウーファーを使用しているときは、電源を入れて音量を適度に上げておいてください。

1　システムセットアップ画面の中から「Manual MCACC」を選択する。

システムセットアップ項目を表示するまでの手順は「システムセットアップで本機の設定をする」（36 ページ）をご覧ください。

2　↑/↓ ボタンを押して調整したい設定項目を選んで、決定を押す。

以下の設定をはじめて行うときは、上から順番に項目を選択することをお勧めします。

- **Fine Ch Level** － スピーカーシステム全体の音のバランスを詳細に調整します。「スピーカー出力レベルを詳細に設定する」（下記）をご覧ください。
- **Fine SP Distance** － 各スピーカーまでの距離を詳細に調整します。「スピーカーまでの距離を詳細に設定する」（38 ページ）をご覧ください。

以下の 5 つの設定項目については、アコースティックキャリブレーション EQ に関する項目です。

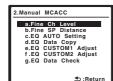
- **EQ AUTO Setting** － 部屋の音響特性を測定し、スピーカーシステム全体の周波数バランスを自動で調整します。「アコースティックキャリブレーション EQ を自動で設定する」（39 ページ）をご覧ください。
- **EQ Data Copy** － アコースティック EQ の内容を手動で調整するために設定内容を別に保存します。「補正カーブを保存する」（39 ページ）をご覧ください。
- **EQ CUSTOM1/2 Adjust** － アコースティック EQ の内容を手動で詳細に調整します。「自動測定された補正カーブを手動調整する」（40 ページ）をご覧ください。
- **EQ Data Check** － **ALL CH ADJUST** や **FRONT ALIGN** で補正された設定値や手動調整した設定値をディスプレイで確認します。「補正カーブを確認する」（41 ページ）をご覧ください。

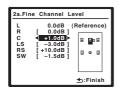
スピーカー出力レベルを詳細に設定する

- 工場出荷時の設定：**0 dB**（すべてのスピーカー）

スピーカーシステム全体の音のバランスを適正に調整することで、より良いサラウンド効果をもたらします。「スピーカーの設定を行う」（42 ページ）ではできないような詳細な調整を行うことができます。

1　Manual MCACC の設定項目から「Fine Ch Level」を選択する。

音量が自動的に**−13 dB** まで上がり、大きな音でテストトーンが出力されます。フロント左スピーカーはスピーカーシステム全体の基準値となるため、固定されており調整することはできません。

2　⬆/⬇ ボタンで調整したいスピーカーを選んで、⬅/➡ ボタンで出力レベルを調整する。

基準となるスピーカーの音量と比較しながら、各スピーカーの出力レベルを− 10 dB ～+10 dB の範囲内で調整します。それぞれのテストトーンが同じ大きさに聞こえるよう調整します。**決定**ボタンでも次のスピーカーに移ることができます。

- 基準となるスピーカーは調整したいチャンネルに対して最適なスピーカーが選ばれます。

3　戻るを押して終了する。

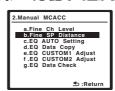
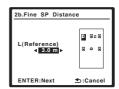
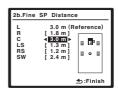
Manual MCACC の設定画面に戻ります。

スピーカーまでの距離を詳細に設定する

- 工場出荷時の設定：**3.0 m**（すべてのスピーカー）

スピーカーまでの距離を設定することで、各スピーカーからの音が同時に視聴位置に届くようにします。音に定位感や移動感をもたらすために必要な設定で、「スピーカーの設定を行う」（42 ページ）よりも詳細な調整を行うことができます。

1　Manual MCACC の設定項目から「Fine Sp Distance」を選択する。

音量が自動的に**−13 dB** まで上がります。

2　⬅/➡ ボタンでフロント左スピーカーまでの実測距離を入力して、決定を押す。

3　⬆/⬇ ボタンで調整したいスピーカーを選んで、⬅/➡ ボタンで距離を調整する。

基準となるスピーカーと調節するスピーカーから出力されるテストパルスを聞きながら、距離を 0.1 m から 9.0 m の範囲内で調節します。

2 つのスピーカーに対してリスニングポジションから下図のように向き、2 つのテストパルスの聞こえるポイントが真ん中になるように調整します。

すべてのスピーカーまでの距離を調整します。

- 基準となるスピーカーは調整したいチャンネルに対して最適なスピーカーが選ばれます。

4　戻るを押して終了する。

Manual MCACC の設定画面に戻ります。

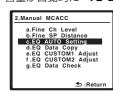
アコースティックキャリブレーション EQ 機能を設定する

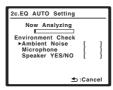
アコースティックキャリブレーション EQ は、視聴環境の周波数特性を補正するものです（サブウーファーについては補正しません）。部屋の音響特性を測定し周波数特性を均一化します。これにより各チャンネルの音のつながりが向上し、これまでにない実像感やリアルな移動感を再現します。ここでは、サラウンドの自動設定で調整された周波数特性をより詳細に調整します。

アコースティックキャリブレーション EQ を自動で設定する

「Auto MCACC で自動設定する」（6 ページ）を行っているときは、すでに **ALL CH ADJUST** と **FRONT ALIGN** は設定されていますので、ここでの設定は必要ありません。設定された内容を手動で調整したいときは「自動測定された補正カーブを手動調整する」（40 ページ）をご覧ください。

1　Manual MCACC の設定項目から「EQ AUTO Setting」を選択する。

音量が自動的に **–13 dB** まで上がります。

- セットアップ用マイクが接続されていることを確認してください。
- サブウーファーを接続しているときは、サブウーファーの電源が入っていて適度に音量が上がっていることを確認してください。
- マイクを使った測定時の騒音や干渉について、詳しくは「Auto MCACC 設定時におけるその他の問題」（8 ページ）をご覧ください。

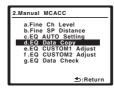
2　EQ AUTO Setting の自動測定が終了するまで待つ。

テストトーンが出力されて本機が測定を行い、自動的に周波数バランスが補正され、以下の設定が保存されます。

- **ALL CH ADJUST** – 特定のスピーカー特性に合わせるのではなく、全チャンネルの周波数を均一にする設定
- **FRONT ALIGN** – 全チャンネルの周波数特性をフロントスピーカーの特性に合わせ込む設定（フロントチャンネルは補正されません）

自動測定が終わると、アコースティックキャリブレーション EQ の設定項目に戻ります。引き続き、以下の項目にお進みください。

補正カーブを保存する

あらかじめ「Auto MCACC で自動設定する」（6 ページ）または「アコースティックキャリブレーション EQ を自動で設定する」（上記）で測定された補正カーブに調整を加えたいときは、**ALL CH ADJUST** または **FRONT ALIGN** の補正カーブを「CUSTOM1」または「CUSTOM2」に保存する必要があります。

1　Manual MCACC の設定項目から「EQ Data Copy」を選択する。

2　⬆/⬇ ボタンで「CUSTOM1」か「CUSTOM2」のどちらに保存するかを選んで、⬅/➡ ボタンで保存したい補正カーブの種類を選ぶ。

- 「CUSTOM1」に保存された補正カーブを「CUSTOM2」に、「CUSTOM2」に保存された補正カーブを「CUSTOM1」に保存することもできます。
- **ALL CH ADJUST** と **FRONT ALIGN** の詳しい説明は「アコースティックキャリブレーション EQ を自動で設定する」（39 ページ）をご覧ください。

3　⬆/⬇ ボタンで「OK」を選んで、決定を押す。

補正カーブが保存されます。

⬅/➡ ボタンで「CANCEL」を選ぶと、保存をキャンセルすることができます。

自動測定された補正カーブを手動調整する

補正カーブを手動で調整する前に、自動測定された **ALL CH ADJUST** または **FRONT ALIGN** の補正カーブを「補正カーブを保存する」（39 ページ）で「CUSTOM1」または「CUSTOM2」に保存する必要があります。

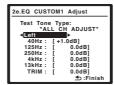
1　Manual MCACC の設定項目から「EQ CUSTOM1 Adjust」または「EQ CUSTOM2 Adjust」を選択する。

「CUSTOM1」に補正カーブを保存したときは「EQ CUSTOM1 Adjust」を、「CUSTOM2」に補正カーブを保存したときは「EQ CUSTOM2 Adjust」を選びます。

2　⬅/➡ ボタンでテストトーンの種類を選んで、決定を押す。

音量が自動的に **−13 dB** まで上がります。

- **ALL CH ADJUST** − サブウーファーを除いた全スピーカーの周波数特性を均一化します。
- **FRONT ALIGN** − フロントスピーカーの特性に合わせて全スピーカーの周波数特性を補正します。フロント左スピーカーと調整するスピーカーとで交互にテストトーンが出力されます。

3　スピーカーと周波数帯域を選んで、EQ レベルを調整する。

⬅/➡ ボタンでスピーカーを選択します。

⬆/⬇ ボタンで周波数帯域を選び、⬅/➡ ボタンで EQ レベルを調整します。1 つのスピーカーの調整が終了したら、⬆/⬇ ボタンでスピーカー選択の位置に戻って、次に調整したいスピーカーを選択してください。

- **FRONT ALIGN** を選択したときはフロント左／右スピーカーの調整をすることはできません。
- ある帯域の周波数を極端に調整すると、表示部に「**OVER!**」と表示されることがあります。この場合は、「**OVER!**」が消えるまでさまざまな帯域のレベルを下げてください。

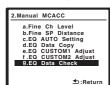
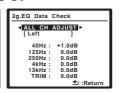
ある周波数帯域のレベルを極端に調整すると、全体のチャンネルレベルバランスが変わってしまいます。そのようなときは **TRIM** を選び、調整することで全体的なバランスを調整します。⬆/⬇ ボタンで **TRIM** を選び、⬅/➡ ボタンで選択しているスピーカーの全体的なチャンネルレベルを調整します。

4　戻るを押して終了する。

Manual MCACC の設定画面に戻ります。

補正カーブを確認する

「Auto MCACC で自動設定する」（6 ページ）や「アコースティックキャリブレーションEQ を自動で設定する」（39 ページ）、「自動測定された補正カーブを手動調整する」（40 ページ）で測定された「ALL CH ADJUST」、「FRONT　ALIGN」、「CUSTOM1」および「CUSTOM2」の各補正カーブを確認することができます。

1　Manual MCACC の設定項目から「EQ Data Check」を選択する。

2　⇦/⇨ ボタンで補正カーブの種類を選ぶ。

- 再生中に行うと、補正カーブごとの音の違いを比較することができます。

3　⇦/⇨ ボタンで確認したいチャンネルを選んで、決定ボタンを押す。

⇧/⇩ボタンで各周波数帯域の詳細を確認できます。

- 別のチャンネルを確認するときは ⇧/⇩ ボタンでチャンネル選択の画面にしてから ⇦/⇨ ボタンでチャンネルを選びます。

4　戻るを押して終了する。

Manual MCACC の設定画面に戻ります。

聴感によるスピーカーの設定を行う (Manual SP Setup)

「Auto MCACC で自動設定する」（6 ページ）で Auto MCACC を行った場合はすでに設定されています。必要に応じてお好みで再設定できます。

1　システムセットアップ画面の中から「Manual SP Setup」を選択する。

システムセットアップ項目を表示するまでの手順は「システムセットアップで本機の設定をする」（36 ページ）をご覧ください。

2　⇧/⇩ ボタンを押して調整したい設定項目を選んで、決定を押す。

- **Speaker Setting** – スピーカーの接続本数や大きさ（低域再生能力）などを設定します。詳しくは「スピーカーの設定を行う」（42 ページ）をご覧ください。
- **Crossover Network** – 何 Hz 以下の低音域をサブウーファーなどで再生するかを設定します。詳しくは「クロスオーバー周波数を設定する」（42ページ）をご覧ください。
- **Channel Level** – スピーカーシステム全体の出力レベルを調整します。詳しくは「スピーカー出力レベルを設定する」（43 ページ）をご覧ください。
- **Speaker Distance** – 視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定します。詳しくは「スピーカーまでの距離を設定する」（44 ページ）をご覧ください。

スピーカーの設定を行う

スピーカーの大きさや本数を設定することで再生する音域を最適なチャンネルへ配分します。

1 Manual SP Setup の設定項目から「Speaker Setting」を選択する。

2 ⬆/⬇ ボタンを押して設定したいスピーカーを選び、⬅/➡ ボタンで大きさを選択する。

以下の各スピーカーについて、スピーカーの接続の有り／無しや大きさを選択します。

- **Front**（フロント）－ 低音域の再生能力が高いスピーカーのときは **LARGE** を選びます。また、サブウーファーを使用しないときも **LARGE** を選びます。低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーのときは **SMALL** を選びます。[1]
- **Center**（センター）－ 低音域の再生能力が高いスピーカーのときは **LARGE** を選びます。低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーのときは **SMALL** を選びます。また、センタースピーカーを接続していないときは **NO** を選びます。このときセンタースピーカーの音は他のスピーカーから再生されます。
- **Surr**（サラウンド）－ 低音域の再生能力が高いスピーカーのときは **LARGE** を選びます。低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーのときは **SMALL** を選びます。また、サラウンドスピーカーを接続していないときは **NO** を選びます。このときサラウンドスピーカーの音は他のスピーカーから再生されます。
- **SUB W.**（サブウーファー）－ **SMALL** に設定されたスピーカーの低音域と **LFE** 信号（ドルビーデジタルや DTS 信号に含まれる超低域信号成分）をサブウーファーから再生するときは **YES** を選びます。サブウーファーから常に低音を再生したいときや、低音を強調したいときは **PLUS** を選びます（このとき、通常はフロントやセンタースピーカーで再生している低音域をサブウーファーでも再生します）。また、サブウーファーを接続していないときは **NO** を選びます（このとき低音域は他の **LARGE** に設定されたスピーカーで再生されます）。[2]

3 戻るを押して終了する。

Manual SP Setup の設定画面に戻ります。

クロスオーバー周波数を設定する

- 工場出荷時の設定：**100Hz**

「スピーカーの設定を行う」で **SMALL** に設定されたスピーカーがあるとき、何 Hz 以下の低音域を **LARGE** に設定されたスピーカーまたはサブウーファーで再生するかを設定します。[3] また、LFE 信号についても同様に、何 Hz 以下の低音域を再生するかが設定されます。

メモ

1 フロントスピーカーが **SMALL** に設定されているときは、サブウーファーは自動的に **YES** に設定されます。またフロントスピーカーが **SMALL** に設定されているときは、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーで **LARGE** を選択することはできません。このとき、各チャンネルの低音域はサブウーファーで再生されます。

2 サブウーファーを **PLUS** に設定した場合、サブウーファーの低音域とフロントスピーカーの低音域が打ち消し合ってしまい、十分な低音の効果が発揮されないことがあります。このようなときは、スピーカーの設置場所や向きなどを変えてみてください。それでも解消されないときは実際に音を出しながらサブウーファーを **YES** にしたり、フロントスピーカーを **SMALL** にしてみて比較し、最適な設定にしてください。

3 スピーカーの大きさなどの設定については、「スピーカーの設定を行う」（上記）をご覧ください。

1　Manual SP Setup の設定項目から「Crossover Network」を選択する。

2　←/→ ボタンでクロスオーバー周波数を選ぶ。

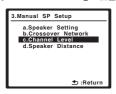
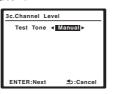
ここで選択された周波数以下の低音域は、サブウーファーまたは **LARGE** に設定されたスピーカーから再生されます。

3　戻るを押して終了する。

Manual SP Setup の設定画面に戻ります。

スピーカー出力レベルを設定する

各スピーカーの出力レベルを設定することで、スピーカーシステム全体のバランスを調整します。

1　Manual SP Setup の設定項目から「Channel Level」を選択する。

2　←/→ ボタンを押して設定方法を選ぶ。

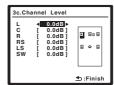
- **Manual** ─ テストトーンを出力するスピーカーを手動で切り換えて調整します。
- **Auto** ─ テストトーンを出力するスピーカーが自動で切り換わります。

3　設定内容を確認して決定を押す。

音量が自動的に**−13 dB** まで上がり、大きな音でテストトーンが出力されます。

4　←/→ ボタンで各スピーカーの出力レベルを調整する。

Manual を選んだときは、↑/↓ ボタンでスピーカーを選択します。**Auto** を選んだときは、以下の順番でテストトーンが出力されます。

L → C → R → RS → LS → SW

テストトーンを聞きながら、各スピーカーの出力レベルを調整してください。[1]

5　戻るを押して終了する。

Manual SP Setupの設定画面に戻ります。

ヒント

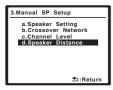
スピーカー出力レベルは、リモコンの **CH 選択**ボタンと**レベル+/−**ボタンで調整することもできます。このとき、**DVD 5.1ch** 入力は独立してスピーカー出力レベルを設定することができます。

メモ

1 ・音圧計を使用する場合は、視聴位置で測定して、各スピーカーの出力レベルを 75 dB SPL（C- ウェイト／スローモード）に調整してください。
・サブウーファーからのテストトーンは小音量です。テストトーンでの調整ではなく実際にソフトを再生しながら出力レベルを調整することをお勧めします。

スピーカーまでの距離を設定する

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定することで、各チャンネルの遅延時間が自動的に算出され、最適なサラウンド効果を得ることができます。

1　Manual SP Setup の選択項目から「Speaker Distance」を選択する。

3d.Speaker Distance
L ◀ 3.0 m ▶
C [3.0 m]
R [3.0 m]
RS [3.0 m]
LS [3.0 m]
SW [3.0 m]
:Finish

2　⬆/⬇ ボタンで設定するスピーカーを選んで、⬅/➡ ボタンで各スピーカーまでの距離を設定する。

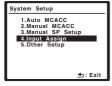
0.1 m 間隔で調整できます。

3　戻るを押して終了する。

Manual SP Setupの設定画面に戻ります。

入力に関する設定を行う (Input Assign)

本機のデジタル入力端子や D4 映像入力端子に接続した機器が各端子の工場出荷時の設定と異なるときに使用します。

1　システムセットアップ画面の中から「Input Assign」を選択する。

システムセットアップ項目を表示するまでの手順は「システムセットアップで本機の設定をする」（36 ページ）をご覧ください。

2　⬆/⬇ ボタンを押して、設定したい項目を選び、決定を押す。

- **Digital Input** －「デジタル入力を設定する」（下記）をご覧ください。
- **D4 Input** －「D4 映像入力を設定する」（45 ページ）をご覧ください。
- **HDMI Input** －「HDMI 入力を設定する」（45 ページ）をご覧ください。

デジタル入力を設定する

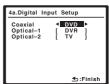
- 工場出荷時の設定：

  Coaxial（同軸）－ **DVD**

  Optical-1（光）－ **DVR**

  Optical-2（光）－ **TV**

デジタル入力端子の接続で、上記の工場出荷時の設定と異なる機器を接続したときのみ、ここでの設定が必要になります。この設定は、本機のどの端子に何の機器を接続したかを設定することで、入力名と機器名称が合うようにします。

1　Input Assign の設定項目から「Digital Input」を選択する。

2　⬆/⬇ ボタンで、変更したいデジタル入力端子を選ぶ。

- リアパネルのデジタル入力端子ごとに、番号が記されています。

3　その入力端子に接続した機器を適切な機器に変更する。

- ⬅/➡ ボタンと**決定**を使って **DVD**、**TV**、**CD**、**CDR**、**DVR** または **OFF** から選択します。
- デジタル入力端子に割り当てられている機器（**DVD/BD** など）について、他のデジタル入力端子に同じ機器が新たに割り当てられると、前に設定されていた入力は、自動的に **OFF** に切り換わります。

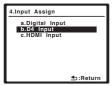
4　戻るを押して終了する。

Input Assign の設定画面に戻ります。

D4 映像入力を設定する

- 工場出荷時の設定：
  D4 Video-1 － DVD
  D4 Video-2 － TV

D4 映像入力の接続で、上記の工場出荷時の設定と異なる機器を接続したときのみ、ここでの設定が必要になります。D4 ビデオ映像入力について詳しくは「D4 ビデオ映像端子を使用する」（15 ページ）をご覧ください。

1 Input Assign の設定項目から「D4 Input」を選択する。

2 ⬆/⬇ ボタンで、変更したい D4 映像入力端子を選ぶ。

- リアパネルの D4 映像入力端子ごとに、番号が記されています。

3 その入力端子に接続した機器を適切な機器名に変更する。

- ⬅/➡ ボタンと**決定**を使って **DVD**、**TV**、**DVR** または **OFF** から選択します。
- D4 映像入力端子に割り当てられている機器（**DVD/BD** など）について、他の D4 映像入力端子に同じ機器が新たに割り当てられると、前に設定されていた入力は、自動的に **OFF** に切り換わります。
- D4 映像入力に接続した機器の音声についても、ここで選んだ入力と同じ入力の音声入力端子に接続してください。
- 本機の D4 映像入力に機器を接続したときは、必ずテレビも **D4 VIDEO MONITOR OUT** 端子に接続してください。

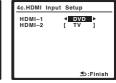
4 戻るを押して終了する。

Input Assign の設定画面に戻ります。

HDMI 入力を設定する

- 工場出荷時の設定：
  HDMI-1 － DVD
  HDMI-2 － TV

HDMI の接続で、上記の工場出荷時の設定と異なる機器を接続したときのみ、ここでの設定が必要になります。HDMI 入力について詳しくは「HDMI 端子を使用する」（16 ページ）をご覧ください。

1 Input Assign の設定項目から「HDMI Input」を選択する。

2 ⬆/⬇ ボタンで、変更したい HDMI 入力端子を選ぶ。

- リアパネルの HDMI 入力端子ごとに、番号が記されています。

3 その入力端子に接続した機器を適切な機器名に変更する。

- ⬅/➡ ボタンと**決定**を使って **DVD**、**TV**、**DVR** または **OFF** から選択します。
- HDMI 入力端子に割り当てられている機器（**DVD/BD** など）について、他の HDMI 入力端子に同じ機器が新たに割り当てられると、前に設定されていた入力は、自動的に **OFF** に切り換わります。
- *VSX-518V のみ：*HDMI 入力で接続した機器の音声を本機で聴く場合は、音声ケーブルによる接続も必要です。詳しくは「HDMI 端子を使用する」（16 ページ）をご覧ください。
- 映像機器を本機の HDMI 入力に接続した場合は、テレビを本機の **HDMI MONITOR OUT** 端子に接続してください。

4 戻るを押して終了する。

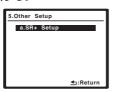
Input Assignの設定画面に戻ります。

その他の設定を行う（Other Setup）

VSX-918V のみ

フラットテレビの連動設定を行う

本機とパイオニアフラットテレビを SR+ ケーブルで接続した場合の連動設定を行います。本機の音声とフラットテレビの映像の入力を連動させることができます。ソース機器の映像出力を直接フラットテレビの映像入力に接続した場合、本機の入力切り換えと連動してフラットテレビの映像入力も自動で切り換わります。

1 システムセットアップ画面の中から「Other Setup」を選択する。

システムセットアップ項目を表示するまでの手順は「システムセットアップで本機の設定をする」（36 ページ）をご覧ください。

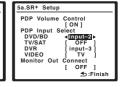
2 「SR+ Setup」が選択されていることを確認して決定を押す。

3 PDP Volume Setting の設定をする。

- **OFF** －本機側の操作でフラットテレビの音量の調節をしません。
- **ON** －本機の入力をテレビを接続した端子（**TV/SAT** など）に切り換えたときに、テレビの音量が 0 になり、本機から音声が出力されます。

4 ソース機器を接続したフラットテレビの入力端子を選択する。

本機の音声入力と、フラットテレビの映像入力の端子名を合わせます。たとえば、DVD の映像出力をフラットテレビの input-2 入力に接続した場合は、**DVD/BD** の設定を input-2 にします。

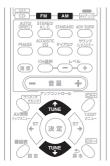
- **Monitor Out Connect** の設定は、フラットテレビを本機に接続した端子を指定してください。

5 戻るを押して終了する。

Other Setup の設定画面に戻ります。

第 7 章：

ラジオチューナーの使用

ラジオ放送を聞く

放送局を受信するには自動選局（オートチューニング）と手動選局（マニュアルチューニング）の方法があります。一度受信した放送局は記憶させて、呼び出すこともできます。詳しくは「放送局を記憶する」（48 ページ）をご覧ください。

1　FM または AM ボタンを押して聞きたいバンドを選ぶ。

フロントパネルのボタンでも操作できます。

2　放送局を受信する。

以下の 3 つの方法で選局できます。

オートチューニング

TUNE ↑/↓（またはフロントパネルの **TUNE + / –**）を押して、周波数が動きはじめたら指を離します。自動で放送局を探し、受信すると止まります。次の放送局を探すときはもう一度押してください。

マニュアルチューニング

TUNE ↑/↓（**TUNE + / –**）を押すたびに 1 ステップずつ周波数を移動します。

ハイスピードチューニング

TUNE ↑/↓（**TUNE + / –**）を押し続けると、高速で周波数を移動します。受信したい放送局の周波数でボタンから指を離してください。

FM の受信で Ψ または ◯◯ インジケーターが点灯せず受信状態が悪いときは、**MPX**(**シフト** +**3**) ボタンを押してモノラル受信に切り換えます。受信感度が良くなり放送が聞きやすくなります。

放送局をダイレクトに選局する

受信したい放送局の周波数がわかっているときは、リモコンの**数字**ボタンで周波数を入力して選局することができます。

1　FM または AM ボタンを押して聞きたいバンドを選ぶ。

フロントパネルのボタンでも操作できます。

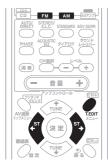
2　D.ACCESS（シフト+決定）ボタンを押す。

3　数字ボタンで放送局の周波数を入力する。

たとえば、「FM 76.00 MHz」を選ぶには、**数字**ボタンの **7**、**6**、**0**、**0** を押します。

入力の途中で数字を間違えたときは **D.ACCESS** を 2 回押して、入力をはじめからやり直してください。

放送局を記憶する

本機では、よく聞く放送局を A、B、C の 3 つのクラスに各 10 局、合計 30 局まで記憶することができます。[1]

1　FM または AM ボタンを押してリモコンをチューナーモードにする。

フロントパネルのボタンでも操作できます。

2　記憶させたい放送局を受信する。

詳しくは「ラジオ放送を聞く」（47 ページ）をご覧ください。

3　T. EDIT ボタンを押す。

ディスプレイに **ST. MEMORY** と表示され、クラスが点滅します。

4　クラス（シフト + 2）を押して記憶させるクラスを選んでから、ST ⇐/⇒（ST + / −）ボタンを押して記憶させるステーション番号を選ぶ。

ステーションの選択には**数字**ボタンも使用できます。

5　決定を押す。

決定を押すと、保存先のクラスとステーション番号の点滅が止まり、本機に放送局が記憶されます。

記憶した放送局を呼び出す

放送局を呼び出すには、放送局を記憶しておく必要があります。放送局を記憶していない場合は、「放送局を記憶する」（上記）をご覧ください。

1　FM または AM ボタンを押して、呼び出したいバンドを選ぶ。

2　クラス（シフト + 2）ボタンを押して呼び出したい放送局のクラスを選ぶ。

押すたびにクラス A 、B、C が切り換わります。

3　ST ⇐/⇒（ST + / −）を押して呼び出したい放送局のステーション番号を選ぶ。

数字ボタンでステーション番号を選ぶこともできます。

記憶した放送局に名前をつける

選局しやすいように、記憶した放送局に名前をつけることができます。

1　FM または AM ボタンを押してリモコンをチューナーモードにする。

フロントパネルのボタンでも操作できます。

2　名前をつけたい放送局を選ぶ。

選局方法については、「記憶した放送局を呼び出す」（上記）をご覧ください。

3　T.EDIT を押す。

表示部に **ST. NAME** が表示され、最初の文字の位置でカーソルが点滅します。

4　名前を入力する。

名前は 4 文字まで入力できます。

- **ST ⇐/⇒（ST + / −）**ボタンで文字を選びます。
- **決定**を押すと次の文字へカーソルが移動します。文字を入力せず空白のままにするには、スペースを入力してください。
- 最後の文字を選んだあとに**決定**を押すと、名前が記憶されます。

ヒント

- 入力した名前を消去するには、上記の手順 4 ですべてスペースを入力してください。
- 放送局に名前をつけると、**チューナー表示（シフト + 1）**を押すことで、その放送局の周波数表示と名前表示を切り換えることができます。

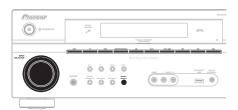
メモ

1 FM 放送を記憶したときは、MPX の設定も記憶されます。

第 8 章：
機器の録音／録画

音声や映像を録音／録画する

本機に接続されている機器（CD プレーヤーやテレビなど）や本機のラジオチューナーなどを本機を通して録音／録画することができます。[1]

アナログ音声信号のデジタル録音、およびデジタル音声信号のアナログ録音を行うことはできませんので、録音する際は必ずデジタル、アナログの接続を合わせてください。詳しくは「接続」（10 ページ）をご覧ください。

1　録音／録画したい入力機器を選ぶ。

リモコンの**入力切換**ボタンまたは**マルチコントロール**ボタン、フロントパネルの**入力ファンクション切り換え**ボタンで選びます。

「PORTABLE」、「CD-R」入力は**シフト**を押しながら選びます。

2　必要に応じて入力信号を選ぶ。

AVアンプを押してから**音声切換**を押して、再生する機器に合った音声入力信号を選択します。フロントパネルの **SIGNAL SELECT** でも選択できます。詳しくは「入力信号を選択する」（33 ページ）をご覧ください。

3　録音／録画したい入力機器の準備をする。

ラジオを受信したり、CD、ビデオ、DVD を入れるなどの準備をします。

4　録音／録画機器の準備をする。

録音／録画用のカセットテープ、MD ディスク 、ビデオテープなどを録音／録画する機器に入れて、録音レベルを設定します。[2]

録音レベルについてわからない場合は、録音／録画機器の取扱説明書をご覧ください。ビデオデッキなどでは通常、録音レベルは自動設定されます。

5　録音／録画を開始してから、機器を再生する。

メモ

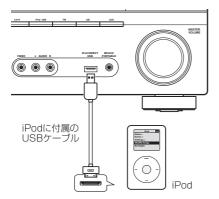
1 映像を録画する場合、入力機器と録画機器の接続ケーブルを同じタイプにする必要があります。たとえば、入力機器と本機をビデオコードで接続し、録画機器と本機を D4 端子ケーブルでつないだ場合は録画することができません。詳しくは「HDD/DVD レコーダーやビデオデッキを接続する」（14 ページ）をご覧ください。

2 本機の音量、出力レベル、トーンコントロール (低音／高音)、ラウドネスやサラウンドの設定などは、録音には反映されません。

第 9 章：

iPod/USB メモリーの再生

iPod をつないで再生する

本機と iPod を接続して、iPod の音楽を本機で楽しむことができます。[1]

1 本機の電源を切る。

2 iPod に付属の USB ケーブルを使用して、iPod を本機のフロントパネルにある iPod DIRECT USB 端子に接続する。

iPod の接続については、 iPod に付属の取扱説明書もご覧ください。

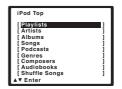
3 本機の電源を入れてから、iPod USB ボタンを押す。

フロントパネルの表示部に **Loading** と表示され、iPod が正しく接続されているかどうか確認します。

テレビの電源も入れておいてください。

- **iPod USB** ボタンを押したあとに **No USB** と表示された場合は、電源を切ってから本機と iPod の接続をやり直してみてください。

4 戻るボタンを押す。

テレビに iPod Top 画面が表示されます。[2]

5 ↑/↓ ボタンを押して再生したいカテゴリーを選んで、決定ボタンを押す。

カテゴリーは以下の中から選びます。

選んだカテゴリーのリストが表示されます。

Playlists	Podcasts
Artists	Genres
Albums	Composers
Songs	Audiobooks
	Shuffle Songs

- 前の画面に戻るには、**戻る**ボタンを押します。

メモ

1 ・本機は、第 5 世代以降の iPod® や iPod nano の音声に対応しています。ただし、モデルによっては一部機能が制限されます。
・iPod のソフトウェアが古いと正常に動作しないことがあります。必ず最新の iPod ソフトウェアでお使いください。
・iPod は、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
・パイオニア製品から iPod のイコライザを操作することはできません。本機に iPod を接続する前に、iPod のイコライザを「オフ」に設定することをお勧めします。
・本機と iPod を組み合わせてご使用の際、iPod のデータに不具合が生じても、データの補償はいたしかねますのであらかじめご了承ください。

2 ・iPod の画面には **Pioneer** と表示され、iPod 本体を操作することはできなくなります。
・本機での表示は英数字のみとなります。英数字以外の文字が iPod に記録されている場合、その文字は「＊」で表示されます。
・iPod に記録されている映像は表示されません。

6 再生したいリスト（ジャンル、アルバムなど）を選んで決定する。

←/→ ボタンでリストのページを切り換え、

↑/↓ ボタンでリストを選択します。

7 手順 6 を繰り返して、聴きたい曲を再生する。

iPod を操作する

本機のリモコンで以下の iPod の操作ができます。

ボタン	機能
►	再生を開始します。
▮▮	一時停止 / 一時停止解除します。
◄◄/►►	押し続けている間、早戻しまたは早送りをします。
▮◄◄	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
►►▮	次のトラックの先頭に進みます。
(リピート)	リピート再生を設定します。押すたびに **Repeat One**、**Repeat All**、**Repeat Off** が切り換わります。
(シャッフル)	シャッフル再生を設定します。押すたびに **Shuffle Songs**、**Shuffle Albums**、**Shuffle Off** が切り換わります。
チューナー表示（シフト＋(シャッフル)）	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
←/→	フォルダー / ファイルリスト画面を表示中にページ送り / 戻しをします。
↑/↓	Audiobook を再生中に再生の速さを変更します。 Faster ↔ Normal ↔ Slower
戻る	前の画面に戻ります。

重要

フロントパネル表示部にメッセージが表示された場合は、以下の操作を行ってみてください。

メッセージ	対応
Error I1	正常に通信できません。 コネクターを一度外し、iPodのメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクターを接続してください。 それでも iPodが正常に動作しない場合は、iPodをリセットしてください。
Error I2	iPodソフトウェアのバージョンが古いときに表示されます。 iPodのソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。
Error I3	本機が対応していない iPodが接続されています。 対応したモデルかどうか確認してください。（50 ページ）
	iPodソフトウェアのバージョンが古いときに表示されます。 iPodのソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。
Error I4	iPodからの応答がありません。 iPodのソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。
No Music Track	iPodに曲が入っていません。 iPodに曲を転送してください。
No Track	iPodで選択したカテゴリー内にトラックが入っていません。 他のカテゴリーを選択してください。

iPod の操作を切り換える

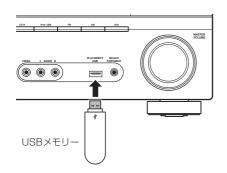
iPod の操作を本機と iPod 本体とで切り換えることができます。

1 iPod CTRL を押して、操作を iPod 側に切り換える。

iPod 本体で操作できるようになり、本体画面が表示されます。本機での操作はできなくなり、OSD 画面は表示されません。

2 もう一度 iPod CTRL を押して、操作を本機側に切り換える。

USB メモリーを再生する

お手持ちの USB メモリーを本機に接続することで、USB メモリーに記録されている音楽ファイルを本機で再生することができます。本機ではステレオまたはモノラル音声を再生することができます。[1]

1 本機とテレビの電源を入れる。

2 iPod USB ボタンを押す。

OSD 画面に **No USB** と表示されます。

3 USB メモリーを本機のフロントパネルにある iPod DIRECT USB 端子に接続する。

OSD 画面に **Loading** と表示され、USB メモリーを読み込みます。読み込みが終了すると再生画面が表示され、自動で再生が開始されます。[2]

再生機能を使っていろいろな再生が可能です。詳しくは「再生機能について」（次ページ）をご覧ください。再生したいファイル（曲）を OSD 画面のフォルダー / ファイルリストから選んで再生することもできます。詳しくは「フォルダー / ファイルリストでファイルを選んで再生する」（次ページ）をご覧ください。

メモ

1 ・本機で再生できる USB メモリーのファイルは、WMA、MP3、MPEG-4 AAC のいずれかで、著作権保護のかかっていない音楽ファイルのみです。
・本機とパソコンを USB ケーブルで接続して音楽ファイルを再生することはできません。本機が対応している USB メモリーは、外付ハードディスクや携帯フラッシュメモリー、デジタルオーディオ再生機（FAT 16、FAT 32 のフォーマットに対応）などの USB マスストレージクラスに属する機器です。
・本機ではすべての USB メモリーの再生、および電源の供給を保証できない場合があります。また、本機と接続したことで、USB メモリーのファイルが万が一損失した場合、当社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。
・容量の大きい USB メモリーを接続したときは、読み込みに多少時間がかかることがあります。
・本機は USB ハブには対応していません。

2 ・本機で再生できないファイルが選択された場合は、自動的に次の再生可能なファイルが再生されます。
・曲のタイトルがファイルに記録されていない場合は、ファイル名が OSD 画面に表示されます。アルバム名やアーティスト名が記録されていない場合は、それらは表示されません。
・英数字以外の文字は「＊」で表示されます。

再生機能について

リモコンで以下の USB メモリーの再生操作ができます。

ボタン	機能
►	再生を開始します。
❚❚	一時停止／一時停止解除します。
◄◄/►►	押し続けている間、早戻しまたは早送りをします（早戻し / 早送り中は音声がとぎれることがあります）。
❙◄◄	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
►►❙	次のトラックの先頭に進みます。
(リピート)	リピート再生を設定します。押すたびに **Repeat All**、**Repeat One**、**Repeat Folder** が切り換わります。
(シャッフル)	シャッフル再生を設定します。押すたびに **Shuffle On**、**Shuffle Off** が切り換わります。
チューナー表示（シフト +(シャッフル)）	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
⬅/➡	再生中のトラックの頭出しをします。（フォルダー / ファイルリスト画面を表示中はページ送り / 戻し）
戻る	再生画面のときはフォルダー / ファイルリスト画面を表示します。フォルダー / ファイルリスト画面のときは画面の階層を戻します。

フォルダー / ファイルリストでファイルを選んで再生する

ファイルが複数のフォルダーに記録されている USB メモリーの場合、OSD 画面にフォルダー / ファイルリストが表示されます。⬆/⬇/⬅/➡ と**決定**ボタンを使って再生したいファイルを選んで再生します。

1 戻るボタンを押して USB メモリーのフォルダー / ファイルリスト画面を表示する。

2 ⬆/⬇ で再生したいファイルを選択して、決定ボタンを押す。

- **戻る**ボタンを押すと、ひとつ前の階層に戻ります。
- 前後のフォルダーやファイルに切り換えるには ⬅/➡ ボタンを使います。

重要

USB ERR と表示されたときは以下の内容をご確認のうえ、下記の操作を行ってみてください。

USB ERR	内容
USB ERR 1	USB メモリーの消費電力が大きすぎます。
USB ERR 2	対応していない USB 機器が接続されています。
USB ERR 3	「故障かな？と思ったら」（64 ページ）をご確認ください。

- 本機の電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。
- 本機の電源を切ってから USB メモリーを抜き、再度 USB メモリーを接続して電源を入れてみてください。
- **DVD/BD** などの他の入力に切り換えてから、再度 **USB** 入力にしてみてください。
- AC アダプターが付属されている USB メモリーをお使いの場合は、AC アダプターを接続して使用してみてください。

上記の操作を行っても USB ERR が表示されるときは、USB メモリーが本機に対応していません。

再生できる圧縮ファイルについて

本機では標準的なサンプリング周波数 / ビットレートで圧縮されたフォーマットの多くに対応していますが、一部対応していないフォーマットもあります。本機で対応している圧縮フォーマットは以下のとおりです。

- **MP3**（MPEG-1/2/2.5 オーディオレイヤー 3）：

サンプリングレートは 8 kHz ～ 48 kHz、ビットレートは 8 kbps ～ 320 kbps（128 kbps 以上を推奨）[1]、ファイル拡張子は **.mp3** に対応しています。

- **WMA**（Windows Media Audio）：

サンプリングレートは 32 kHz/44.1 kHz、ビットレートは 32 kbps ～ 192 kbps（128 kbps 以上を推奨）[1]、ファイル拡張子は **.wma** に対応しています（WMA9 Pro やロスレスエンコーディング（loss-less encoding）には対応しておりません）。

- **AAC**（MPEG-4 Advanced Audio Coding）：

サンプリングレートは 11.025 kHz ～ 48 kHz、ビットレートは 16 kbps ～ 320 kbps（128 kbps 以上を推奨）[1]、ファイル拡張子は **.m4a** に対応しています（アップルロスレスエンコーディング（Apple loss-less encoding）には対応しておりません）。

重要

- 著作権保護のかかったファイルは再生することができません。

MPEG-4 AAC について

AAC とは、「Advanced Audio Coding 」の略で、MPEG-2 、MPEG-4 で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。AAC データは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。本機では、iTunes® によってエンコードされた、拡張子が「.m4a」のAAC ファイルを再生することができます。ただし、著作権保護のかかったファイルやエンコードする iTunes のバージョンによっては再生できないことがあります。

iTunes は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

WMA について

外装箱に印刷された、Windows Media® のロゴは、本機が WMA データの再生に対応していることを示しています。

WMA とは、「Windows Media Audio 」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。本機では Windows Media Player によってエンコードされた、拡張子が「.wma」の WMA ファイルを再生することができます。ただし、著作権保護のかかったファイルやエンコードする Windows Media Player のバージョンによっては再生できないことがあります。

Microsoft、Windows Media 、Windows ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

メモ

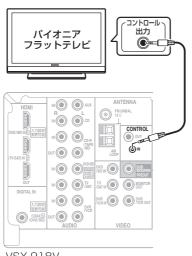
1 可変ビットレート（VBR）で圧縮されたファイルも再生できますが、経過時間が正しく表示されないことがあります。

第 10 章：

フラットテレビとの連動操作

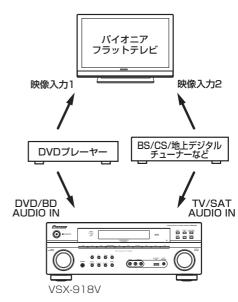
（VSX-918V のみ）

パイオニアフラットテレビとの接続

SR ＋に対応したパイオニア製フラットテレビ (2003 年以降に発売されたモデル) を、SR ＋ケーブルで接続することでシステム動作を実現します。フラットテレビの画面を見ながら本機のシステムセットアップをしたり、音量やリスニングモードの確認ができます。また、本機とフラットテレビの入力を連動させて切り換えることができます。

VSX-918V

- **専用の SR+ ケーブル[1] を使用して、フラットテレビのコントロール出力端子と、本機の CONTROL IN 端子を接続する。**

本機とフラットテレビをシステム動作させるには、本機の設定が必要です。詳しくは「フラットテレビの連動設定を行う」（46 ページ）をご覧ください。

VSX-918V

パイオニア製 DVD プレーヤーなどの機器も同様にして SR+ で接続してください。
DVD プレーヤーなどの映像出力端子はフラットテレビの映像入力端子に直接接続してください。

メモ

1 · このシステム動作を実現するためには専用の SR ＋ケーブル（パイオニア部品番号：ADE7095）が必要となります。詳しくはパイオニア部品受注センターへご連絡ください。市販の 4 極ミニジャック（両端とも）付コードもご使用いただけます。
 · SR ＋ケーブルを使用してパイオニア製フラットテレビと接続した場合は、本機を操作するときはリモコンをフラットテレビのリモコン受光部に向けて操作してください。フラットテレビの電源が切れているときはリモコンで本機の操作ができません。

SR+ 連動モードを使用する

SR+ ケーブルを使用して本機とパイオニア製フラットテレビを接続することで、以下の連動動作が可能になります。

- 音量やリスニングモードがテレビ画面に表示されます。
- フラットテレビの映像入力が自動的に切り換わります。
- フラットテレビが自動的に消音されます。[1]

詳しくは「フラットテレビの連動設定を行う」(46 ページ)をご覧になり、本機の設定を行ってください。

1 本機とフラットテレビが SR+ ケーブルで接続されていて、電源が入っていることを確認する。

詳しくは「パイオニアフラットテレビとの接続」(55 ページ)をご覧ください。

2 AV アンプボタンを押してから SR+(シフト +8)を押して連動モードを切り換える。

フロントパネルに **SR+ ON** または **OFF** が表示されます。

メモ

1 この機能は ON/OFF の切り換えが可能です。詳しくは「フラットテレビの連動設定を行う」(46 ページ) をご覧ください。

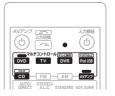
第 11 章：
他機器のリモコン操作

他機器を操作するためのリモコン設定について

付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器を操作することができます。お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出すだけで操作できるようになります。

ただし、プリセットコードを呼び出しても、すべての操作ができなかったり、まったく操作できないこともあります。[1]

- リモコンの設定中に **AV アンプ**ボタンを押すと設定はキャンセルされます。
- リモコンの設定中に 1 分間何も操作がないと自動的に設定はキャンセルされます。

プリセットコードを呼び出す

1 AV アンプボタンを押しながら数字ボタンの 1 を押す。

リモコンの LED ランプが点滅します。

2 操作したい機器のマルチコントロールボタンを押す。[2]

リモコンの LED ランプが点灯に変わります。

3 操作したい機器にリモコンを向けて、その機器に該当するメーカーコード（63 ページ）を入力する。

- 正しく設定されると電源 ON/OFF 信号がリモコンから送信され、操作したい機器の電源が ON または OFF に切り換わります。
- メーカーコードが正しく入力されても間違って入力されても手順 2 へ戻ります。
- 機器の電源が ON/OFF しない場合で、その機器に別のメーカーコードがある場合は、手順 2 から別のコードでやり直してみてください。

4 他の機器もプリセットコードを設定したいときは手順 2 ～ 3 を繰り返す。

5 AV アンプボタンを押して設定を終了する。

メモ
1 テレビ関係のコード（テレビ、CATV、衛星チューナーなど）は **TV** または**テレビ操作（シフト+ DVR）**ボタンにのみ設定することができます。
2 **AV アンプ**ボタンには登録できません。

ダイレクトファンクション機能を設定する

- 工場出荷時の設定：**ON**

ダイレクトファンクションは**マルチコントロール**ボタンを押したときに、本機の入力を切り換えるかどうかを設定する機能です。オフにすると、入力は切り換わらずにリモコンの操作モードのみ切り換わります。オンにすると入力もリモコン操作モードも切り換わります。[1]

1 AV アンプボタンを押しながら数字ボタンの 4 を押す。

リモコンの LED ランプが点滅します。

2 設定したいマルチコントロールボタンを押す。

リモコンの LED ランプが点灯に変わります。

3 オンに設定したいときは数字ボタン 1 を、オフに設定したいときは数字ボタン 2 を押す。

4 AV アンプボタンを押して設定を終了する。

リモコンの設定を初期化する

リモコンに設定されたすべての機能をリセットして工場出荷時に戻します。

- **AV アンプボタンを押しながら数字ボタンの 0 を 3 秒間押し続ける。**

リモコンの LED ランプが 3 回点滅し、リモコンに設定されたすべての機能をリセットします。

メモ

1 マルチコントロールの**テレビ操作（シフト＋ DVR）**にはダイレクトファンクションを設定できません。

テレビの操作

本機のリモコンにプリセットコードを入力することで、他機器を操作できるようになります。詳しくは「他機器を操作するためのリモコン設定について」（57 ページ）をご覧ください。**マルチコントロール**ボタンの **TV** または**テレビ操作**を選択します。

ボタン	機能	機器
テレビコントロール ⏻	**テレビ操作**ボタンにプリセットコード設定した機器の電源を入／切します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
テレビコントロール 入力切換	映像入力を切り換えます（機種によってはできないものがあります）。	テレビ
テレビコントロール チャンネル +/–	チャンネルを選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
テレビコントロール 音量 +/–	音量を調整します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
入力機器 ⏻	テレビや CATV の電源を入／切します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
音声 （シフト + ▶▶**）**	音声を選択します。	衛星チューナー / テレビ
CH+/– **（シフト** + **T.EDIT/ シフト**+**戻る）**	チャンネルを選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
番組表	番組表を表示します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
戻る	**RETURN** または **NEXT** を選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
メニュー	メニュー画面を選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
トップメニュー	デジタル放送のメニュー画面を表示します。	テレビ
	放送サービスを切り換えます。	CATV
数字ボタン	チャンネルを選択します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
+**10 ボタン**	チャンネルを選択します（2 桁以上の数値入力用）。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
決定 / DISC	チャンネルを入力します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
⬆⬇⬅➡/ 決定	メニュー画面操作時に項目の選択、調整をします。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ
地上アナログ （シフト + **4）**	地上アナログ放送を選択します。	衛星チューナー / テレビ
地上デジタル （シフト + **5）**	地上デジタル放送を選択します。	衛星チューナー / テレビ

ボタン	機能	機器
BS **（シフト + 6）**	BS デジタル放送を選択します。	衛星チューナー / テレビ
青 **（シフト + 7）**	番組表やデータ放送番組で、項目を選んだり表示を切り換えるとき、青ボタンとして使用します。	衛星チューナー / テレビ
赤 **（シフト + 8）**	番組表やデータ放送番組で、項目を選んだり表示を切り換えるとき、赤ボタンとして使用します。	衛星チューナー / テレビ
緑 **（シフト + 9）**	番組表やデータ放送番組で、項目を選んだり表示を切り換えるとき、緑ボタンとして使用します。	衛星チューナー / テレビ
黄 **（シフト + 0）**	番組表やデータ放送番組で、項目を選んだり表示を切り換えるとき、黄ボタンとして使用します。	衛星チューナー / テレビ
CS **（シフト + +10）**	110 度CS デジタル放送を選択します。	衛星チューナー / テレビ
d **（►）**	デジタル放送のテレビ番組やラジオ番組に連動したデータ放送を表示します。	衛星チューナー / テレビ
番組情報	番組情報を表示します。	CATV/ 衛星チューナー / テレビ

メモ

リモコンの**テレビコントロールボタン**は、**テレビ操作**（**シフト + DVR**）ボタンにプリセットコードを設定したテレビの操作に使用します。そのため、使用するテレビが 1 台のときは **マルチコントロール**の**テレビ操作**（**シフト + DVR**）ボタンにプリセットコードを設定してください。2 台のときは**テレビ操作**（**シフト + DVR**）ボタンに通常よく使うテレビの方を設定してください。

他機器の操作

本機のリモコンにプリセットコードを入力することで、他機器を操作できるようになります。詳しくは、「他機器を操作するためのリモコン設定について」（57 ページ）をご覧ください。プリセットコードが入力された機器の**マルチコントロール**ボタンを選択します。

ボタン	機能	機器
入力機器 ⏻	電源を入／切（スタンバイ）します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVR プレーヤー / カセットデッキ
⏮	再生中のトラック／チャプターの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラック／チャプターの先頭に戻ります。	CD/MD/CD-R/DVD/LD/DVR プレーヤー
⏭	次のトラック／チャプターの先頭に進みます。続けて押すと、さらに次のトラック／チャプターの先頭に進みます。	CD/MD/CD-R/DVD/LD/DVR プレーヤー
⏸	再生や録音／録画を一時停止します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVR プレーヤー / カセットデッキ
▶	再生を開始します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVR プレーヤー / カセットデッキ
▶▶	早送りします。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVR プレーヤー / カセットデッキ
◀◀	早戻しします。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVR プレーヤー / カセットデッキ
■	再生を停止します。	DVR プレーヤー
	再生または録音／録画を停止します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD プレーヤー / カセットデッキ
● 録画 (シフト + ▶)	録音／録画を開始します。	MD/CD-R/VCR/DVR プレーヤー / カセットデッキ
録画停止 (シフト + ■)	録画を停止します。	DVR プレーヤー
数字ボタン	トラック番号を入力して、トラックを選択します。	CD/MD/CD-R/VCR/LD プレーヤー
	メニュー画面を操作します。	DVD/DVR プレーヤー
+10 ボタン	10 以上のチャプター／トラックを選ぶときに使用します（たとえば、トラック **13** を選ぶとき、**+10** と **3** を押します）。	CD/MD/CD-R/DVD/LD/DVR プレーヤー

ボタン	機能	機器
決定 / DISC	ディスクを選択します。	CD チェンジャー
	ディスクを取り出します。	MD プレーヤー
	ナビゲーション画面を表示します。	DVR プレーヤー
	決定ボタンとして使用します。	DVD プレーヤー
	再生面を切り換えます。	LD プレーヤー
トップメニュー	トップメニュー画面を表示します。	DVD/LD/DVR プレーヤー
メニュー	ディスクのメニュー画面を表示します。	DVD/LD/DVR プレーヤー
⬆	一時停止します。	カセットデッキ
⬇	停止します。	カセットデッキ
決定	再生を開始します。	カセットデッキ
⬅/➡	早戻し／早送りします。	カセットデッキ
⬅➡⬆⬇ / 決定	メニュー画面／項目を操作します。	DVD/LD/DVR プレーヤー
設定	設定のメニュー画面を表示します。	DVR プレーヤー
番組情報	ディスク情報を表示します。	DVR プレーヤー
CH +/– **（シフト + T.EDIT/ シフト + 戻る）**	チャンネルを選択します。	VCR/DVR プレーヤー
音声 （シフト + ▶▶）	音声言語または音声チャンネルを切り換えます。	DVD/LD/DVR プレーヤー
字幕 (シフト + ◀◀)	多言語収録のソフトで、字幕の表示／字幕言語を切り換えます。	DVD/LD/DVR プレーヤー
HDD （シフト + ⏮）	HDD/DVD レコーダーで、ハードディスク操作に切り換えます。	DVR プレーヤー
DVD （シフト + ⏸）	HDD/DVD レコーダーで、DVD 操作に切り換えます。	DVR プレーヤー
ワンタッチダビング （シフト + トップメニュー）	DVD レコーダーのワンタッチダビング機能を実行します。	DVR プレーヤー
地上アナログ （シフト + 4）	地上アナログ放送を選択します。	DVR プレーヤー
地上デジタル （シフト + 5）	地上デジタル放送を選択します。	DVR プレーヤー
BS （シフト + 6）	BS デジタル放送を選択します。	DVR プレーヤー
CS （シフト + +10）	110 度CS デジタル放送を選択します。	DVR プレーヤー

メーカーコードリスト

以下のメーカーコードを本機のリモコンにプリセットすることでその機器を本機のリモコンで操作することができるようになります。
メーカーコードにあるメーカーのプリセットコードをすべて呼び出しても、メーカーや機器によっては操作できなかったり異なるはたらきをすることがあります。

DVD

メーカー/コード	
PIONEER	000,009,018,020,021
AKAI	007
DENON	010
HITACHI	012
MICROSOFT	017
PANASONIC	003,019
PHILIPS	013
RCA	008,011
SAMSUNG	005
SHARP	006
SONY	002,016
THOMSON	015
TOSHIBA	001
VICTOR	004
ZENITH	014

LD

メーカー/コード	
PIONEER	100,111
KENWOOD	103
PANASONIC	105,106
PHILIPS	104
RCA	107
SONY	101

TV TV テレビ操作

メーカー/コード	
PIONEER	600,631,632,633,634,635,636,637,638,639,667,668,669,670
AIWA	660
FUNAI	658
GE	611,628
GENERAL	666
GOLDSTAR	610,623
GRANDIENTE	630
HITACHI	606,624,625,664
MAGNAVOX	612,629
MITSUBISHI	609
NEC	659
PANASONIC	608,622,671
PHILIPS	607
RCA	601,615,616,617,618
SANYO	614,621
SHARP	602,619,627,662
SONY	604
TOSHIBA	605,626,663
VICTOR	613,665
ZENITH	603,620

VCR(VTR)

メーカー/コード	
PIONEER	400,437,438,439
FISHER	412,426,427
GOLDSTAR	411
GRANDIENTE	441
HITACHI	406,434,436,465,472
MAGNAVOX	414
MITSUBISHI	409,420,421,422,423,424,466,467,470
PANASONIC	408,432,433,462,463,473
RCA	401,413,415
SANYO	410,425,435,468
SHARP	402,418,419,469,471
SONY	404,416,417,457,458,459,460,461,475,476,477,478
TOSHIBA	405,464,474
VICTOR	407,428,429,430,431
ZENITH	403

STB TV テレビ操作
(CATV、BSデジタルチューナー、BSデジタルチューナー内蔵テレビ)

メーカー/コード	
PIONEER	200,207,210,229,231,232,234,253,700,718
AICHI DENSHI	734
AIWA	562,563,564
BELL	208
DX ANTENNA	732,733
ECHOSTAR	205
FUJITSU	722,723,724
HITACHI	556,721
JERROLD	701,702,703,704,711,712,713,714,715,716
MASPRO	559,560,561,729
NEC	720
PANASONIC	226,230,558,725,726,728
PRIMESTAR	206
RCA	201,203,209
SA	705,706,708,709,731
SHARP	554
SONY	202,557
SUMITOMO	730
TOSHIBA	228,555,719
VICTOR	227,551,552,553
ZENITH	707,710,717

CD

メーカー/コード	
PIONEER	300
DENON	309
KENWOOD	310,311,321
MARANTZ	323
ONKYO	307,308,320
PANASONIC	304,326
PHILIPS	312,322
RCA	302,319
SANYO	313
SONY	301,316,317,318
TEAC	305,306,324,325,327
VICTOR	303
YAMAHA	314,315,328

DVR

メーカー/コード	
PIONEER	456,480,481,482,483,484,487,488,489,493
PANASONIC	486,491,492
SONY	490
TOSHIBA	485

MD

メーカー/コード	
PIONEER	900,908
DENON	906
KENWOOD	903
ONKYO	905
SHARP	902
SONY	901
TEAC	904

TAPE

メーカー/コード	
PIONEER	800,814
DENON	810
FISHER	813
KENWOOD	804,807
ONKYO	808,809
PANASONIC	803
SONY	801,806
TEAC	805
VICTOR	802
YAMAHA	811,812

DAT

メーカー/コード	
PIONEER	907

CD-R

メーカー/コード	
PIONEER	345
PHILIPS	346
YAMAHA	347

第 12章：
その他

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら以下を調べてみてください。意外なミスが故障と思われがちです。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気機器もあわせてお調べください。

以下の項目を調べても直らないときは、修理を依頼してください。

症状	改善策
全般	
電源が入らない。	• 電源プラグを抜いて、もう一度差し込んでください。 • スピーカーケーブルの芯線がリアパネルに接触していないか確認してください。接触していると電源が自動的に切れます。 • 電源が自動的に切れてしまうようなときは電源プラグを抜いて、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください（裏表紙参照）。
自動的に電源が切れて ⏻STANDBY/ON ボタンのランプが点滅している。	• 1 分間待ってから電源を入れてみてください。それでも同じ症状が繰り返されるときは電源プラグを抜いて、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください（裏表紙参照）。
入力切換を合わせても音声が出ない。	• 機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「接続」（10 ページ）をご覧ください。 • **消音**ボタンを押して、ミュートを解除してください。 • 入力信号の選択が正しいか確認してください。詳しくは「入力信号を選択する」（33 ページ）をご覧ください。
入力切換を合わせても映像が出ない。	• 機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「接続」（10 ページ）をご覧ください。 • **入力切換**ボタンを押して、正しい入力に合わせてください。
ラジオ受信中に雑音が多い。	• アンテナを接続して最良な受信位置へ設置してください（18 ページ）。 • 受信が良好になるようにアンテナケーブルを十分に伸ばして壁に貼り付けるなどしてください。 • FM 屋外アンテナを接続してください。 • 受信が良好になるように、アンテナの方向と位置を変えてください。 • AM 屋外アンテナまたは室内アンテナを接続してください。 • 雑音を生じさせる機器の電源を切るか、または本機から遠ざけてください。 • 雑音を生じさせる機器から、アンテナを遠ざけてください。
放送局が自動的に選ばれない。	• 屋外アンテナを接続してください（18 ページ）。
サラウンドまたはセンタースピーカーから音が出ない。	• スピーカーが正しく接続されているか確認してください（19 ページ）。 • 「スピーカーの設定を行う」（42 ページ）をもう一度確認してください。 • 「スピーカー出力レベルを設定する」（43 ページ）でスピーカーの出力レベルをもう一度確認してください。

症状	改善策
サブウーファーから音が出ない。	• サブウーファーを正しく接続して、電源を入れてください。 • サブウーファーに音量調整機能があれば、ボリュームを上げてください。 • 再生しているドルビーデジタルや DTS 信号の中に低音域の LFE チャンネルが含まれていない。 • サブウーファーの設定を **YES** または **PLUS** にしてください。詳しくは「スピーカーの設定を行う」（42 ページ）をご覧ください。 •「**LFEATT**（LFE アッテネーター）」（35 ページ）を **LFEATT0** または **LFEATT10** にしてください。
カセットデッキを再生すると雑音が出る。	• 雑音が消えるまで、カセットデッキを本機から離してください。
DTS で収録されたソフトを再生しても音が出ない（または雑音が出る）。	• 再生機器のデジタル出力レベルを、最大から中間くらいにしてください。
DTS フォーマット CD のサーチ中に雑音が聞こえる。	• 故障ではありませんが、スピーカーから雑音が大音量で出力されないように、DTS CD のサーチ中は本機の音量を下げてください。
リモコンが操作できない。	• 電池を交換してください（4 ページ）。 • フロントパネルのリモコン受光部から 7 m、左右 30°の範囲で操作してください（24 ページ）。 • 障害物を取り除くか、別の場所に移動させてください。 • リモコン信号受光部に強い光が当たらないようにしてください。
ディスプレイの表示が暗い、または表示されない。	• リモコンの**ディマー**ボタンを押して、表示部の明るさを選択してください。
何らかの操作のあと、ディスプレイ表示が点滅する。	• 操作禁止を意味します。入力信号やリスニングモードによっては選択できない機能があります。
USB	
USB メモリーが本機で認識されない。	• 一度電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。 • USB 端子に正しく接続されているかどうか確認してください。 • USB メモリーのフォーマットが FAT16 または FAT32 であるかどうか確認してください。FAT12、NTFS、HFS は本機で再生することができません。 • USB ハブには対応していません。
USB ERR3 と表示され USB メモリーの再生ができない。	•「USB メモリーを再生する」の「重要」（53 ページ）のすべての項目を確認、実行し、それでも USB ERR3 が表示されるときは、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください。
USB メモリーのファイルを再生できない。	• 著作権保護のかかった WMA や MPEG-4 AAC のファイルを本機で再生することはできません（パソコンなどで CD などの音楽データを取り込む場合、設定によっては著作権保護がかかることがあります）。 • 再生しようとしているファイルの圧縮フォーマットに本機が対応しているかどうか確認してください（54 ページ）。
リモコンの ► ボタンを押しても USB を再生しない。	• リモコンが USB モードになっていません。**iPod USB** を押してリモコンを USB モードにしてください。

症状	改善策
HDMI	
映像と音声の両方が出ない。	• ソース機器の仕様によっては AV アンプを通しての HDMI 接続ができない場合があります。ソース機器の仕様を確認し、非対応のときはソース機器と本機を D4 ビデオ、コンポジットビデオコードのいずれかで接続してください。 • *VSX-918V のみ*：本機は HDCP に対応しています。ご使用の機器が HDCP 対応かどうかをご確認ください。HDCP 非対応のときは D4 ビデオ、コンポジットビデオコードのいずれかで接続してください。
映像が出ない。	• ソース機器の設定によっては映像が表示されないビデオフォーマットが出力されることがあります。ソース機器の設定を変更するか、D4 ビデオ、コンポジットビデオコードのいずれかで接続してください。 • *VSX-918V のみ*： ―ソース機器の映像が影響している可能性があります。ソース機器の解像度設定や DeepColor の設定などを調整してください。 ―「NOT SPT (NOT SUPPORT)」と表示される場合は、ソース機器の解像度設定や DeepColor の設定などを調整してください。
OSD 画面が表示されない。	• テレビを HDMI で接続している場合は OSD 画面は表示されません。D4 ビデオ、コンポジットビデオコードのいずれかで接続してください。
音声が出ない、またはとぎれる。	• ソース機器の設定が間違っている可能性があります。ソース機器を正しく設定してください。 • *VSX-918V のみ*： ― DVI 機器と接続しているときは、音声が出ません。別途音声の接続を行ってください。 ― AV 調整機能の HDMI 設定が「THRU」になっています。「AMP」に設定してください。 • *VSX-518V のみ*：ソース機器の音声を本機で聞く場合は、アナログまたはデジタル音声ケーブルでの接続も行ってください。
VSX-918V のみ：「HDCP ERROR」と表示される。	• HDCP に対応していない機器が接続されています。D4 ビデオ、コンポジットビデオコードのいずれかで接続してください。HDCP に対応した機器でも表示されることがありますが、映像がとぎれなく出力されているときは不具合ではありません。

HDMI 接続に関するご注意

(VSX-918V のみ)

本機を経由してソース機器 (DVD プレーヤーやビデオデッキ、セットトップボックスなど) と TV(モニター) を HDMI ケーブルを使って接続すると、映像や音声が出力されないことがあります (ソース機器の仕様により、AV アンプを経由して TV に映像や音声を出力できないことがあります)。このようなときは、接続しているソース機器のメーカーにお問い合わせください。

AV アンプを経由して TV に映像や音声を出力できないソース機器をそのままお使いになるときは、下記の接続例の方法に変更すると映像や音声を出力できます。

接続例[1]

ソース機器と TV を HDMI ケーブルで直接接続してください。

本機とソース機器を音声ケーブルを使って接続してください。このとき TV の音量は最小にしてください。

メモ

1 ・HDMI 入力端子が 1 系統の TV からは、直接接続したソース機器の映像のみ出力されます。
・ソース機器によっては、2 チャンネル音声しか出力されないことがあります (これは、ソース機器が TV の音声チャンネル数に合わせるためです)。
・ソース機器を切り換えるときは、本機と TV の入力を両方切り換えてください。
・HDMI 端子に入力される映像を TV で見るときは、TV の入力を HDMI に切り換えます。このとき TV の音量は最小に調整してください。

工場出荷時の設定一覧

設定項目	初期値	参照ページ
AV 調整機能		
MIDNIGHT（ミッドナイト）	OFF	34
LOUDNESS（ラウドネス）		
BASS（低音）	0 dB	
TREBLE（高音）	0 dB	
C WIDTH（センター幅）	3	
DIMEN.（ディメンション）	0	
PNRM.（パノラマ）	OFF	
EFFECT（エフェクト）	70 (X-STEREO 選択時は 90)	
デュアルモノラル	ch1	35
DRC（ダイナミックレンジコントロール）	OFF	
ダイアログエンハンスメント	OFF	
DELAY（サウンドディレイ）*（VSX-918V のみ）*	0.0 フレーム	
LFEATT（LFE アッテネーター）	0 dB	
HDMI *（VSX-918V のみ）*	AMP	
システムセットアップ設定		
スピーカー出力レベル	0 dB（補正無し）	37、43
スピーカーまでの距離	すべて 3.0 m	38、44
アコースティックキャリブレーション EQ	OFF（MCACC 設定後は ALL CH）	39
視聴環境の周波数特性の補正	全帯域 0 dB（補正無し）	39
スピーカーの有り無し / 低域再生能力	すべて SMALL（小）※	42
サブウーファー	YES（有り）※	42
クロスオーバー周波数	100Hz	42
デジタル入力の設定	リアパネル表記のとおり	44
D4 映像入力の設定	リアパネル表記のとおり	45
HDMI 入力の設定	リアパネル表記のとおり	45
フラットテレビの連動設定 *（VSX-918V のみ）*	OFF	46
その他		
入力ファンクション	DVD/BD	5、33
入力信号の種類	AUTO（入力信号により変化します）	33
リスニングモード	AUTO SURROUND	29
PHASE CONTROL	ON	9
サウンドレトリバー機能	OFF	31
スピーカーシステム A/B	SP►A	21
ディスプレイの明るさ	一番明るい	24

※ 本機にはサブウーファー検出機能がついています。サブウーファーが接続されていない場合は変更します。

本機を初期化する

以下の手順で、本機のすべての設定を工場出荷時の状態に初期化します。初期化はフロントパネルで行います。

1　本機の電源をスタンバイ状態に切り換える。

2　ADVANCED SURROUND ボタンを押しながら ⏻ STANDBY/ON ボタンを約 3 秒間押し続ける。

3　表示部に RESET? と表示されたら、ST- ボタンを押す。

表示部に **OK?** と表示されます。

4　SOUND RETRIEVER ボタンを押す。

表示部に **OK** と表示され、本機が工場出荷時の状態に初期化されたことを示します。

電源コードについての注意

電源コードは電源プラグ部を持って取り扱ってください。ショートや感電の原因となるため、コードを引っ張ってプラグを抜いたり、濡れた手で電源コードに触れたりしないでください。

電源コードを傷つけないため、本機や家具の下敷きにならないようにしてください。電源コードは結び目を作ったり、他のコードと一緒に結んだりしないでください。

電源コードは、踏みつけられないように配線してください。破損したコードは火災や感電を引き起こします。電源コードに破損がないかを定期的に確認してください。

もし破損していたら、お買い上げの販売店へ交換を依頼してください。

本機のお手入れについて

- 磨き布や乾いた布で、表面のほこりや汚れを拭き取ってください。
- 表面が汚れているときは、中性洗剤を水で 5 ～ 6 倍に薄めたものに柔らかい布を浸してよく絞って、汚れを拭き取り、乾燥した布でから拭きします。家具用のワックスや洗剤は使用しないでください。
- 製品の表面がさびることがありますので、シンナー、ベンジン、殺虫剤などを製品にかけたり、製品の近くで使用しないでください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。

ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後 8 年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い求めの販売店へご相談・ご依頼ください。

修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。それでも異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、販売店へご依頼ください。ご転居されたり、ご贈答品などで、お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、裏表紙の「ご相談窓口のご案内」・「修理窓口のご案内」をご覧になり、修理受付センターにご相談ください。

■ 連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：AV マルチチャンネル・アンプ
- 型番：VSX-918V / VSX-518V
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物や公園など）

■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

本製品は家庭用オーディオ機器（オーディオ・ビデオ機器）です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用（例：店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両・船舶への搭載、屋外での使用など）はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号（連続波）などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

S26_Ja

愛情点検

長年ご使用のAV機器の点検を!

このような症状はありませんか	・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ・電源コードにさけめやひび割れがある。 ・電源が入ったり切れたりする。 ・本体から異常な音、熱、臭いがする。		ご使用中止	故障や事故防止のため、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

K026_A_Ja

サービスステーションリスト

サービス拠点への電話は、修理受付センターでお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービスステーション）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付センターにご確認ください。

●北海道地区

受付　月〜金　9:30〜18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30〜12:00、13:00〜18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆札幌サービスセンター	FAX　011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX　0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX　0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX　0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月〜金　9:30〜18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30〜12:00、13:00〜18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆仙台サービスセンター	FAX　022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX　023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX　024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービス認定店	FAX　019-659-1895	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX　017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX　0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野3-16-8
秋田サービス認定店	FAX　018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目345-1

●東京都内

受付　月〜土　9:30〜18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
世田谷サービスステーション	FAX　03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢4-25-9
北東京サービスステーション	FAX　03-3944-7800	〒170-0002	豊島区巣鴨1-9-4　第三久保ビル1F
多摩サービスステーション	FAX　042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1 F

●関東・甲信越地区

受付　月〜金　9:30〜18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30〜12:00、13:00〜18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆千葉サービスセンター	FAX　043-207-2555	〒263-0014	千葉市稲毛区作草部町1369-1　椎の実ハイツ1F
松戸サービス認定店	FAX　047-340-5052	〒270-0021	松戸市小金原4-9-23
水戸サービス認定店	FAX　029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
つくばサービス認定店	FAX　0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園2-2-6
☆埼玉サービスセンター	FAX　048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
川越サービス認定店	FAX　049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX　028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-1
群馬サービス認定店	FAX　0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
新潟サービス認定店	FAX　025-374-5756	〒950-0982	新潟市中央区堀之内南1-20-11
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX　0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆神奈川サービスセンター	FAX　045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜サービス認定店	FAX　045-348-8661	〒240-0043	横浜市保土ヶ谷区坂本町250
神奈川西サービス認定店	FAX　046-231-1209	〒243-0422	海老名市中新田4-10-53　中山ビル1F
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX　04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX　0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX　026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX　055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月〜金　9:30〜18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30〜12:00、13:00〜18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆名古屋サービスセンター	FAX　052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX　0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX　059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX　058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東1-1-3
静岡サービス認定店	FAX　054-236-4063	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-17-17
沼津サービス認定店	FAX　055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX　053-422-1401	〒435-0042	浜松市東区篠ヶ瀬町415　ビラモデルナ5号
金沢サービス認定店	FAX　076-240-0550	〒920-0362	金沢市古府3-60-1　K2ビル1F
富山サービス認定店	FAX　076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX　0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆大阪サービスセンター	FAX 06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
大阪南サービス認定店	FAX 0722-75-2625	〒593-8322	堺市西区津久野町1-8-15　ローズマンション1F
神戸サービス認定店	FAX 078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX 0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土1-126
和歌山サービス認定店	FAX 0734-46-3026	〒641-0021	和歌山市和歌浦東3-1-25
京都サービス認定店	FAX 075-352-2588	〒600-8322	京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2　五条久保田ビル1F
奈良サービス認定店	FAX 0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
福知山サービス認定店	FAX 0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国・四国地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆広島サービスセンター	FAX 082-248-9939	〒730-0041	広島市中区小町2-30　第二有楽ビル1F
岡山サービス認定店	FAX 086-244-8748	〒700-0975	岡山市今8-15-21
松江サービス認定店	FAX 0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX 0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX 0857-28-8011	〒680-0934	鳥取市徳尾422-2
徳山サービス認定店	FAX 0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービスステーション	FAX 087-861-4841	〒760-0078	高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX 088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX 088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX 089-911-5608	〒791-8013	松山市山越5-12-8

●九州地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆福岡サービスセンター	FAX 092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-12-3
北九州サービス認定店	FAX 093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX 092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店	FAX 095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX 096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX 097-551-2049	〒870-0921	大分市萩原3-23-15　日商ビル101
鹿児島サービス認定店	FAX 099-201-3803	〒890-0046	鹿児島市西田3-8-24　サニーサイド21 1F
宮崎サービス認定店	FAX 0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1

●沖縄県

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）

拠点	TEL/FAX	〒	住所
沖縄サービスステーション	TEL 098-879-1910 FAX 098-879-1352	〒901-2113	浦添市大平2-2-6　ひろえハイツ102

平成20年2月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

仕様

アンプ部

実用最大出力(JEITA、1 kHz、10 %、6 Ω)
フロント.. 130 W/CH
センター.. 130 W
サラウンド.................................... 130 W/CH
定格出力（ステレオ動作時）1 kHz、1.0 %、6 Ω
....100 W + 100 W
定格出力（サラウンド動作時）
20 Hz ～ 20 kHz、0.08 %、6 Ω
フロント..65 W/CH
センター.. 65 W
サラウンド....................................... 65 W/CH

オーディオ部

入力端子（感度／インピーダンス）
LINE 系.................................. 335 mV/47 kΩ
周波数特性
LINE 系.................... 5 Hz ～ 100 kHz、$^{+0}_{-6}$ dB
出力端子（レベル／インピーダンス）
REC OUT 系 .... 335 mV/2.2 kΩ
トーンコントロール
BASS................................. ±6 dB （100 Hz）
TREBLE.............................. ±6 dB （10 kHz）
LOUDNESS .... （音量－60 dB 時）
+10 dB/+5 dB （100 Hz/10 kHz）
SN 比（IHF、ショートサーキット、A ネットワーク）
LINE 系... 96 dB

ビデオ部（コンポジット）

入力端子（感度／インピーダンス）... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子（レベル／インピーダンス）
.... 1 Vp-p/75 Ω
SN 比.. 55 dB
周波数特性..................... 5 Hz～ 10 MHz、$^{+0}_{-6}$ dB

ビデオ部（D4 ビデオ）

入力端子（感度／インピーダンス）... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子（レベル／インピーダンス）
.... 1 Vp-p/75 Ω
SN 比 .... 55 dB
周波数特性..................... 5 Hz～ 10 MHz、$^{+0}_{-6}$ dB

HDMI 部

入力端子... 19 ピン x2
出力端子.........................19 ピン（5 V、55 mA）

FM チューナー部

受信周波数 .... 76.0 MHz ～90.0 MHz
実用感度..... モノラル： 15.2 dBf（1.6 µV/75 Ω）
S/N50 dB 感度
.... モノラル： 20.2 dBf（2.8 µV/75 Ω）
ステレオ： 41.2 dBf（31.6 µV/75 Ω）
SN 比（85 dBf 入力時）.......... モノラル : 76 dB
ステレオ : 72 dB
高調波歪率 .... ステレオ : 0.5 %（1 kHz）
実効選択度 .... 65 dB（± 400 kHz）
ステレオセパレーション........... 40 dB（1 kHz）
周波数特性 .... 30 Hz ～ 15 kHz（±1 dB）
アンテナ .... 75 Ω 不均衡型

AM チューナー部

受信周波数 .... 522 kHz ～ 1629 kHz
受信感度（付属ループアンテナ）......... 350 µV/m
SN 比 .... 50 dB
アンテナ .... ループアンテナ

電源部・その他

電源 ....AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力... 180 W
スタンバイ時 .... 0.5 W
外形寸法 (幅 x 高さ x 奥行)
.... 420 mm x 158 mm x 352.5 mm
質量（本体のみ）... 8.7 kg

付属品

セットアップ用マイク.. 1
リモコン... 1
単 3 形乾電池 (動作確認用) 2
AM ループアンテナ 1
FM アンテナ 1
保証書... 1
取扱説明書（本書）.. 1

メモ

仕様と外観は改良のため予告なく変更することがあります。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、ダブル D 記号及び AAC ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

「DTS」はDTS 社の登録商標です。「96/24」は DTS 社の商標です。

安全上のご注意

●安全にお使いいただくために、必ずお守りください。

●ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は注意(警告を含む) しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止) が描かれています。

● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

⚠ 警告

異常時の処置

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

● 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気づかず、重い物をのせてしまうことがあります。

● 放熱をよくするため、他の機器や壁等から間隔をとり、ラックに入れる場合はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
→テーブルクロスなどをかける。

- **着脱式の電源コード（インレットタイプ）が付属している場合のご注意：**
  付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

- 本機の上に火がついたろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

使用環境

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

- 風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 表示された電源電圧（交流100ボルト50 Hz/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この機器を使用できるのは日本国内のみです。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、内部に入った場合、火災・感電の原因となります。

- ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店に交換をご依頼ください。

- 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠ 注意

設置

- 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

- 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

- 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。

- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。

- 旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(+)マイナス(ー)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、漏れた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検

- 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

さくいん

本機を操作するときの主な用語や表示をまとめました。参照ページに進むと、それぞれに関連する情報があります。

50音順

アルファベット順

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
「0120」で始まる フリーコールおよび フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品　■ フリーコール 0120−944−222　■一般電話　03−5496−2986

■ファックス　03−3490−5718

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～19:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81028（ゴーハ゜イオニア）　■一般電話　03−5496−2023

■ファックス　0120−5−81029

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098−879−1910

■ファックス　098−879−1352

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120−5−81095　■一般電話　0538−43−1161

■ファックス　0120−5−81096

平成20年2月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.027

JIS C 61000-3-2適合品　D50-5-10-1_A_Ja

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性−第3-2部：限度値−高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<XRA3043-A>